# 幼兒の教育

第三十八卷　一月號　第一號

東京女子高等師範學校內
日本幼稚園協會

廣島文理科大學教授 文學博士 久保良英 著

新刊

# 兒童の精神構造と指導

菊判洋綴紙數三百頁 定價金二圓八十錢 送料廿一錢

本書は心理學上より兒童の精神構造を科學的に解剖し、體係を立て以て兒童教養の根本義を確立せるものである。兒童の教養は次期の國家の消長を決するものであるが、特に現今我國は非常の時局に立ち何事にも國民總和の力を以て當るべきの秋である。著者はこゝに大に感ずる所あつて、世の教育家父兄の爲に特に本書を著したのだ。先生は我邦心理學界の泰斗で、本書は其深奥なる學問と豐富なる經驗との完全なる融合である。左に其大綱を擧ぐれば……一幼兒の精神構造 二玩具の選び方 三言語と文字 四交友についての注意 五問題の子供の導き方 六家庭に於ける知育 七美の情操陶冶 八道德教育 九宗教教育……一般教育家は勿論一般識者の必讀を望む。

東京高等師範學校教授 文學博士 小野島右左雄 著

# 心理學要說

菊判紙數四百頁 定價二圓五十錢 送料二十一錢

教育の基礎となる新しい心理學說

文檢要書

心理學の問題は嘗ての機械說より生氣說、準機械說等幾變遷を經てゐるが、體制說に至つて今や其全面に涉り百八十度の大回轉を示してゐる。之は人間科學の諸領域に於て重大なる進歩と新らしい分野の開拓とを意味するものである、斯樣な時期に當つて著者は本書に於て單なる紹介や學說の羅列をさけ、專ら見方を敎へ考へを說き見透しを與へようとしてゐる。しかして全卷を通じて一貫するに其獨特の理論を以てし、傍諸家の說にふれ一方其內省よりして東洋思想の色彩も又濃厚であるが、此の意味に於て又一般知識人の必讀を俟つものである。

發行所 東京市牛込區天神町一辨 中文館書店 振替東京三二四七 電話牛込三三五八番

# 賀正

昭和十三年元旦

日本幼稚園協會

# 保姆生徒募集

一、募集人員　五十名

一、出願期限　二月一日ヨリ受付

規則及入學案内ハ三錢切手ヲ同封シテ請求セラル、カ又ハ山手線目白驛前目白幼稚園ニ就キ承合セラレタシ

淀橋區下落合三丁目一、三八八

## 東京目白保姆學校

電話落合長崎二五五九番

# 生徒募集

本科生四十名

研究科生若干名

願書受付三月二十日迄規則書は參錢切手封入の上申込まれよ。

創立以來廿三年。
大正五年東京市麹町區に創立。
昭和二年武藏野の中なる現在地に新築、
附近に森あり、野あり、川ありて四時自然の恩惠を受け、本校の特色とする自然觀察、博物採集、圖畫寫生、自然物應用の手工等材料豐富なり。

## 玉成保姆養成所

所長　ソフアヤ・アラベラ・アルウ井ン

東京市杉並區西高井戸一丁目一三三

省線　西荻窪下車直南約五丁

一、定員　四十名　一、保姆資格を得

一、締切　三月二十日　一、寮舍の設備あり

# 佛教保育協會　保姆養成所

東京市中野區宮前四八　電話中野五八七〇番

一、全國佛教幼稚園聯合の保姆養成機關なり

一、帝都名刹寶仙寺境内に同寺經營の中野高等女學校並感應幼稚園と共に併設せられ環境の清澄と模範的優秀設備は本所の誇りである

一、交通は省線新宿驛より五分　寶仙寺前下車

詳細は學則請求を乞ふ

# 生徒募集

募集人員　七拾名

出願期限　自二月一日　至三月末日

○入學手續ヲ簡易ニ改メタリ

○入學試驗ヲ要セズ　提出書類ニヨリ詮衡ノ上直チニ許可書ヲ送付ス

○無試驗檢定ニヨリ保姆免許狀ヲ受クル特典アリ

○寄宿舍ノ設備アリ

規則書入學案內ハ三錢切手封入申込マルベシ

東京市品川區大井原町五二〇八（省線大井町驛ヨリ城南バスニテ原停留場下車二分）

## 東京昭和保姆養成所

所長　土川五郎

顧問兼講師　東京女子高等師範教授　倉橋惣三

# 平安女學院保育科

修業年限二箇年・保姆及母としての學習、實習、研究

（入學案内要三錢切手）

保姆・小學教員無試驗檢定資格有

第一學年　參拾名募集

京都市上京區下立賣通烏丸西入

平安女學院

なほ英文科・家政科・家庭科及豫科・平安幼稚園・平安高等女學校あり

廣島文理科大學
教授文學博士 長田新譯

# フレーベル自傳

新刊

凡そ一人の偉人を理解するのにその生涯ほど效果あるものはない。而もその生涯が偉人その人に依つて直接書かれた時その效果は愈々效果的であるであらう。この意味でオーガスティンやルソーの懺悔錄が如何に重要の文獻であるかは周知の如くである。同じ意味で近世教育史に一時期を劃した教育者でもあれば教育思想家でもあるフレーベルが自ら自己の生涯を書き記るしたもののあるのは世の教育者に取つて何よりの福音でなくてはならない。この自敍傳はフレーベルが自己の生ひ立ちと自己の思想の發展とを記るして、彼と因緣淺からぬマイニンゲン公に宛てた書翰と一代の哲學者クラウゼに宛てた書翰とから成つてゐる。其處には幼き日より波亂重疊、受難に次ぐに受難を以てした奇しき運命の間にこの偉人が終始一貫永劫なるもの、內的なるもの、聖なるものを求めて七十餘年の生涯を戰ひ拔いて行く氣魄と情熱とが炎の如く燃えてゐる。讀者は其處に教育の爲の聖戰を恐らく我が事として體認し、思はず襟を正して教育の道の難きを知ると共に、教育への戰の如何に聖なるものであるかを感知するであらう。而も今年はフレーベルが世界最初の幼稚園を創立して正に百年、各國競つてこの教聖を偲ぶに忙がしい意味深き秋、多年フレーベル研究に關心を有つ長田博士に依つて、この偉人の自敍傳が邦語に移されたことは我が國教育界の一つの喜びでなくてはならない。

四六判三三〇頁
クロース裝函入
定價一圓七十錢
送料二十一錢

東京神田一ツ橋 岩波書店 振替東京二六二〇四

# 新刊

倉橋惣三作詞
小松耕輔作曲　戸倉ハル振付

# 日本の旗　日の丸の旗

色刷表紙四六倍判音譜及び振付
説明
定價　送料共　一冊　金參拾錢
前金（振替或は參錢郵券）を添へ
冊數及び送先き明記申込次第直
に送本す

此の時局、幼兒兒童に何を唱はせませうか。どんな遊戯をさせませうか。本會は、今日**此の新しい唱歌と遊**戯とを全國の幼兒兒童の前に贈り得ることを最も欣快とするのであります。願はくは、皆さまのお力添へを俟つて、幼稚園に、學校に、家庭に、街頭に、津々浦々に、此の唱歌遊戯の流布を見るに至り得んことを。之れが本會の遠慮のない望みであります。

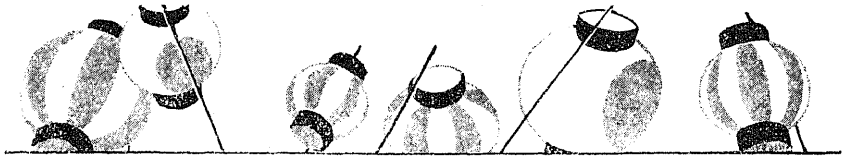
尙、此の刊行によつて得た金額は、**國防費に獻金**致したく、既に金百圓を獻金致しました。どうぞ此の趣旨にも御共鳴下さつて、尙ほ一冊でも多くお購求下さい。又廣くお勸め願ひます。一冊の御購買は卽ち同時に國防獻金となるのであります。若し各幼稚園が此の意味に基いて、取りまとめて御註文下さるようのことまでして頂ければ、此の上ない幸であります。そのために表紙も美しい色刷りの家庭向きにして置きました。

右本會の二つの希望を御協贊願ひます。

發行所

**日本幼稚園協會**

東京市小石川區大塚町三十五
東京女子高等師範學校附屬幼稚園內
振替口座東京一七二六六番



第三十八巻　幼兒の教育　第一號

## ——（目　次）——


口絵……倉橋惣三（一）
巻頭　保育報國……下村壽一（二）
幻……尾上柴舟（三）
虎……堀七藏（三）
小學校の入學準備に就て……牛島義友（一〇）
幼兒の遊び（二）……小川未明（一八）
雪女……山田德兵衛（三三）
事變と玩具……林太郎（三八）
光と炭の挿話……竹村一（四二）
幼稚園を覗く（四）……
時局の保育、時局の影響を各地幼稚園に訊く
岩手　女師附屬幼稚園……（四五）
福島　郡山幼稚園……（五七）
東京　大和郷幼稚園……（六〇）
〃　本郷第一幼稚園……（六二）
〃　富士見幼稚園……（六三）
大阪　中大江幼稚園……（六六）
大分　成溪幼稚園……（六八）
ハイデ——ヨハンナ・スピリ原作——……津田芳雄譯（七〇）

# 第二回幼兒童話募集

——株式會社フレーベル館創業三拾周年記念
保育研究資金による懸賞募集第三回——

## 募集規定

一 應募作は幼兒に適する童話たること。
主題、內容、長短は隨意。
わけても子供の生活を取り入れたもの、又各地の地方色の描き出されてゐるものが望ましい。
一 幼稚園、託兒所保姆諸君の自作たること。(舊作にてもよろし)
一 應募篇數任意。
一 原稿紙にペン書のこと。
一 應募者は宿所、氏名(誌上匿名隨意)及び奉職園の名稱、所在地を明記のこと。
一 日本幼稚園協會(東京市小石川區東京女子高等師範學校附屬幼稚園內)童話募集掛宛のこと。
一 締切 昭和十三年二月末日
一 發表 昭和十三年六月十五日本會發行の「幼兒の教育」誌上。
一 入選作は本誌に掲載し、賞狀及賞金を贈呈します。
一 フレーベル賞
一等一名 金參拾圓 二等一名 金貳拾圓 三等一名 金拾圓
選外佳作拾貳名(賞品贈呈)
一 審査 (五十音順)
小川未明氏 岸邊福雄氏 倉橋惣三氏
久留島武彥氏 新庄よしこ氏
一 原稿は一切返却しません。
一 尙御不明の點は往復はがきで本會童話募集掛宛お問合せ下さい。

## 謹告

先般、株式會社フレーベル館社長高市次郎氏より、同館創業三十周年の記念として、左記の通り、保育研究資金を全國保育界に對して提供せられ、その適切なる使途につき本會に委託せられました。我國保育界のために誠に欣慶事であります。就ては、本會はその資金を保管致すと共に、特に實行委員諸氏を御依囑し御協議を願ひました結果、先づ第一案として、保育上切要なる研究課題を設け、全國幼稚園並に託兒所の保姆諸君の御應募を乞ひ、此の資金を以て其の賞に當つることになりました。その課題は順次に各方面に亙ることゝし、その方面毎に權威ある審査員諸氏の嚴正なる審査を經て贈呈し、その賞をフレーベル賞と名づけることも御相談ありました。

一金壹千五百圓也 保育研究資金

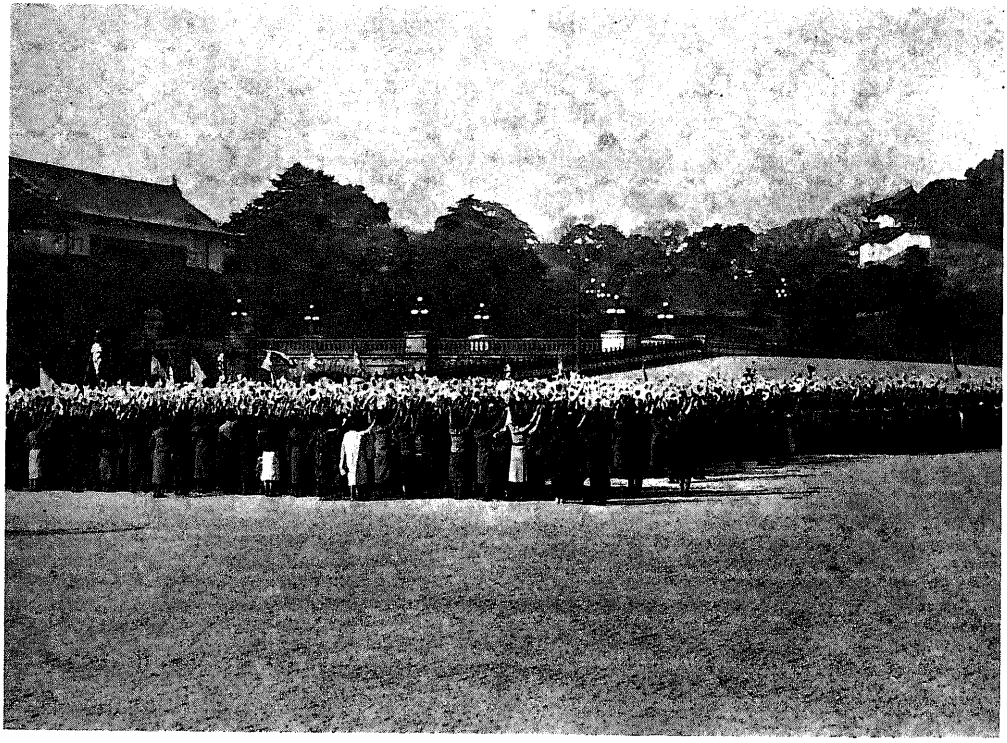
昭和十二年四月十二日
株式會社フレーベル館 社長 高市次郎

右御披露と共に、全國保育界諸賢が奮つて此の計畫に御贊同御援助下さるやう切にお願ひいたします。

昭和十二年十二月
東京女子高等師範學校附屬幼稚園內
日本幼稚園協會

實行委員(五十音順)

青柳美智代氏 朝原梅一氏 及川ふみ氏
兼信學氏 岸邊福雄氏 菊池ふじの氏
倉橋惣三氏 新庄よしこ氏 高崎能樹氏
田島眞治氏 土川五郎氏 和田實氏



—— 東京女子高等師範學校全員 ——

幼兒の教育

昭和十三年一月

# 保育報國

斯の時、何を以て皇國に盡さうか。銃後直接の御奉公は言ふまでもない。精神を緊張し生活を緊縮して、心と物とを獻ぐべき途も多い。しかも、「今」の重大と共に、忘るべからざるは「後」の重要である。今のために盡すと共に、後のために盡さなければならない。殊に、皇國の將來に立つて今日の聖業を繼ぐもの、すなはち今の幼きものゝ保育の重要さが、常時以上の切實感を以て凝思させられるのである。

今日幼兒保育の任に當るもの、一見、豫備隊の豫備隊にあるが如きも、其の平生の職分を以て同じく第一線に動員せられてゐるのである。外觀は嬉戯と閑遊とに時を消すが如きも、常とは別な內部の緊張に於て同じく動員せられてゐるのである。

さて更に思ふ。平生は保育のために働いてゐる。斯の時局では、自分のためにさせて貰つてゐる。身を幼兒に獻ぐることによつて、以て願はくは、この身を皇國に獻げることの出來るために。

（倉橋惣三）

# 幻

會長　下村壽一

嘗て詩人は「人生には幻がなければならぬ。幻は希望となり、希望はやがて實現せられる」と歌つた。吾等の父祖が嘗て夢みたであらう幻、懷いたであらう希望が、今や東亞の大陸に仁愛正義の新天地を肇造しやうとして、著々として實行の途上にあることは眼前の出來事であり、幻の現實化を如實に示すものと言へる。

子供の王國は幻の世界である。まことに子供の時代ほど幻の旺盛な時期はない。彼等の瞼の中に變幻出沒する幻こそ、彼等の創造する未來の生活設計でもあり見取圖でもある。之を唯其の場限りの儚なきものとして徒に雲烟過眼視するのは甚當らぬことである。

今の北海道帝國大學の前身札幌農學校初期の教師クラーク氏が、其の教へ子達に對する訣別の言葉として「諸子よ大望を持て」(Boys, be ambitious)の名句を餞けたことは有名な話であり、此の言葉に感奮興起して國家有用の材になつた人が多いのは人のよく知るところである。併し私はそれ等の人々がまだ學校にも上らぬ幼少の時代に夢みて居つた幻が、クラーク先生の恩愛を籠めた最後の教訓に依つて再生され具體化されて、かゝる美はしい結果を齎したものと考へる。立志と言ひ發奮と言ふも、其の萌しは畢竟泡沫にも似たる子供達の幻の中に胎藏されて潛在するものなることを見忘れてはならぬ。

# 虎

尾上柴舟

王瑤は金持であつた。景色のいゝところに家をつくつてゐた。それを見ようと思つてよつて行く人が多かつた。その中に石生といふのがあつた。「西山に住んでゐる。」と云つて、いつもこゝで休んでゐた。五日目にはきつと來る、瑤はそれと氣が會つたので、よく待遇をする。たゞその持物が山の中のものでないので變だとは思つてゐた。ある時夕方歸らうとするので、

「あなたの御住居に行つて見たいと思つてをりました。今日は御伴を致したい。」

と云ふと、

「私の居るのはひどい山の中で、御尋ねになるやうなところではありません。」

と云ふ。

「いや今日は御伴をいたします。」

と云つてこそわるのを構はずついて行つた、十里餘にもなつた。だん〳〵暗くなつて來た。と石生は、

「あなたはもう御歸りなさい。」

と云ふが、歸らうとしない。「歸れ。」「歸らない。」と押問答をして猶ついて行くと、石生は杖で地面に線を引いた。と急に深い壑があらはれた。石生は俄に白虎となつて一聲高く哮えてふりかへつた。瑤はびつくりして手で顏を被つて匍ひながら慌てゝ歸つた。

石生は再び來なかつた。

*

王居貞は都を出たが、たゞ一人であつた。寂しいので、誰か話相手をと思つてゐると、ふと一人の道士が旅をしてゐるのを見付けた。傍によつて聞いて見ると、自分と同じく潁陽に行くのだといふ。いゝ道連だと思つて、一緒になることにした。ところが、この道士は一日中何も食はない。

「どうかしたのですか。」

といふと、

「咽が惡いので。」

と答へた。暮れてから宿に著いた。

寢る時が來た。枕に就いて燈を消すと、道士が起き上るらしい。どうするかと見ると、布囊をあけて一枚の皮を取り出して著て出て行つた。何處に行つたのかと思ひつゝ眠つてしまつた。が音がするので、目を醒ますと、明方近くなつてゐて、道士は歸つてゐた。

不思議な事をするものだと思つて、翌夜は早くから寢たふりをしてゐた。と道士が起きてまた布囊から皮を取り出して著ようとする。急に起き上つて、横から引つたくつた。道士はびつくりした。寄つて來て取らうとする。取られまいとして逃げる。逐つかける。また逃げる。どうしても返さない。道士はたうたう叩頭をしてしまつた。

「どうか返して下さい。ないとこまるのですから。」

「いや返しません。どうしてあなたは夜これを著て出るのです。それを話さない間はどうしても返しません。」

道士は弱つたが、

「實は私は人間ではありません。その皮を著て虎になるのです。晝は何も食ひません。夜になると、村中を歩きまはつて何か食ひます。その皮を被ると、一夜に五百里は走れるのです。」

居貞はびつくりしてしまつた。が長く故郷の家に歸らない。五百里も歩けると云へば、これを借りれば一寸の間に歸つて來られる。やつて見ようか。

「私が著ても走れますか。」

「走れますとも。」

「それでは今夜貸して下さい。」

と云つて著ると、すぐ走り出された。ごんごん走つて百里餘來ると、ちやんと故郷が見える。家が見えて來た。家には別に變つた事がないと見えて以前のまゝである。で安心はしたが、深夜だから門がしまつてゐて這入る譯に行かない。立つて居る中に腹が減つて來た。

何か食ふものはないか。これからまた百里も歸るのは大變だが、と思つて見廻はしてゐると一匹の猪が門のところに出て來た。

「いゝものがあるな。これで腹拵へをしよう。」

近よつてがぶりとやると、大いに旨い。一口一口食ふに從つていよ〳〵旨い。食ひ盡くしてしまつたので腹は出來たが、門が明かないので仕方がない。ふり返りふり返り、故の道を歸つて、宿屋に著いた。

「御蔭で家へ歸つて來ました。これはお返しますよ。ごうも有り難う。」

と云つて皮をぬいで道士に渡した。

旅から旅を重ねて、居貞は道士に別れて家に歸つた。皆な喜んで迎へたが、次男の顔が見えない。

「次男はどうした。」

といふと妻は泣き出した。

「大變なのです。先月の月初に、次郎は夜中に不意に起きて門の外に出たのですが、それ切り歸らないのです。出て見ますと、骨ばかりになつてゐたのです。ほんたうに悲しい眼にあひました。」

と切々に云つて泣き止めません。丁度道士から皮を借りた晩に當つてゐる。猪と思つたのは自分の子であつた。居貞は泣かうにも泣かれなかつた。

*

空はよく霽れて山の肌が美しい。その紫色をしたところに夕陽が落ちようとしてゐる。張逢はひとりいゝ氣持で、杖をふりながら山に向つて行つた。

麓に來ると、烟るやうな芝原が見える。近づくと綠の色が極めて鮮かである。その側に小さい樹がある。逢はうつとりとした氣持になつて、その樹に衣を脱いでかけて、體を芝の上に投げた。羽根蒲團のやうに柔かいので、全身が浮き上るこゝちがする。仰向になつて暮れて行く空を見てゐると、眠氣がさして來る。たうとう寢てしまつた。

何か響がしたと思つて目を明けると、よほど寢たらしい。心持がはつきりとしてゐる。が手を見ると、爪が伸びてゐる。不思議だと思つて足を見ると、これも爪が伸びてゐる。のみならず毛が一杯生えてゐる。すつかり虎になつてゐるのである。何處からともなく力が湧き上つて來る。飛んで見ると、高く體が上る。忽ち壑が越される。嶺も越される。全く電同樣な速さだ。

遂に夜になつた。暗いところを歩き廻るとさすがに疲れて、餓が感じられる。村の方へ行けば何かあるだらうと思つて垣根に傍つて歩いて見るが、犬も豚も、馬も、何も見えない。困つたものだと思ふと一層ひも

じくなつた。

「あゝあれだ。あの話に聞いた鄭錄事を食つてやらう。もう來る筈だから。」

と道の側に隱れて待つて居る。

暫くして來る人がある。それに向つて來る人もある。

「鄭錄事さんがもう來られさうなものだ。がごうだらう。」

「僕はよく知つてゐる。もう近い。」

「僕はまだどんな人だか知らない。間違つては具合がわるい。」

「三人一緒だが、綠色の著物のがそれだ。」

と話し合ふのを聞いて綠のをと心がけてゐる。その中に一行が近く來る。綠色の人は肥滿してゐる。昂然としてやつて來る、ぱつと飛び出す。口にくはへて山に駈け上る。力一ぱい走る。「あれあれ」と云ふばかりで逐つかけたものもない。嶺に達して、口から落として、頭からかじりつく。飢えて居るので味のいゝことは非常だ。髮と腸とは殘して、あとはすつかり食つた。

腹が滿ちたので安心して、林の中を歩き廻つた。が妙に物寂しくなつた。誰も伴とするものもない。廣い寒い山の中に居るのはたゞ自分一人だ。何かないかと見廻しても、たゞ林と岩と水の音と風の響ばかりだ。

こんな事で何の樂しみがあらうか。全體自分はもと人であつたのだ。それが偶然この姿になつたのだ。ど

うかもさに歸りたいものだ。あの寢たさころに行つて見たら、何さかなるかも知れん、さ思ひつゝ尋ね廻るが、中々その場處が見出だせない。

が、ぞうかして見出さうさ思つて、一日中歩き廻るさ、日の暮に遂に到着した。着物はちやんさ樹にかゝつてをる。杖はちやんさ芝の上にある。芝は昨日のやうに柔かに煙つてゐる。懐しいので、體をその上に轉がすさ、自然に眠たくなる。眼を閉ぢて心を落ち著けるさたん、遠い國に行くやうな氣になる。

眠が足つて起きるさ、人の形になつてゐる。長い、こはい夢を見た氣持で、起き上つて着物を着、杖を持つて出たさころに歸つて來た。

家來は昨日から驚いて居る。主人が急に居なくなつた。方々へ聞き合はせて見た。山に行つたらしいさ云ふので、探して見るが、山路が八方に別れてゐるので、何方へ行つたのかさつぱり分らない、さころへ歸つて來たので、大喜びだ。

「何處へ入らしやつたのですか。」

さ口々に問ふ。

本當の事も云へないので、

「山に行つたさころが、いゝ寺があつて、そこの和尚さんが、いろ〳〵佛教話をする。すきな事だから此方からも話して、遂に泊つてしまつた。」

と云ふ。

「この邊には虎が澤山ゐるさうです。昨日も鄭錄事といふのが食はれたのです。心配しましたよ。が御歸になつて大安心です。」

逢はその後何事もなくつて、旅をして淮陽に行つた。そこの役人連が宴會をするので招かれた。

「今日は、皆な何か面白い話をして下さい。面白くない人には、罰盃ですよ。」

と座長がいふ。と順々にいろ〳〵お話をし出した。順が逢にまはつて來た。逢はしかたがない。また外にいゝ話もないので、虎になつて人を食つた。それが鄭錄事であつたと話した。

急に立ち上つたものがあつた。

「父の讎だ。覺悟をしろ。」

と叫びながら刀を拔いた。

逢も驚いたが、座中の人は皆驚いて立ち上つた。

「何だ。何だ、何の事だ。」

と大騒ぎになる。とその男は、

「自分は鄭遐だ。錄事鄭紀の子だ。食つたものは讎だ。」

と目を怒らして詰めよる。

「それは不思議だ。まあ靜まれ。」

と皆よつて押へつけたが、遐の怒は止まない。遐は鄭將に訟へた。遂に勅令が下つた。

「遐は、淮水を渡らせて、また歸つて來させるな。逢は西に行け。姓名を改めよ。遐に逢はないやうにせよ。」

とあつたので、遐は逢に逢はないことゝなつてしまつた。

「父の讎は報いるべきだ。がそれを殺したのは無意識だ。逢を殺せば、遐は故殺で、また死なゝければならぬ。この讎は打たれまい。」

と人は云つた。

# 小學校入學準備について

東京女子高等師範學校附屬小學校主事　堀　七　藏

## 一

毎年今頃になると、小學校の入學に關していろ〳〵な質問を受けるのでありますが、その中には小學校入學檢定の準備に關するものが最も多いのであります。入學すべき兒童をもてる親達ばかりでなく、幼稚園の保姆諸君も入學檢定の準備をどんなにすれば有效であるかと質問する方が多いのであります。

一體小學校の入學檢定には二通りあります。その一は高等師範學校、女子高等師範學校、府縣立師範學校等の附屬小學校、また私立小學校などで入學者を決定するために行ふものであります。他の一は市町村立の公小學校で入學の際に行ふ檢定であります。後者は當然入學すべき兒童であるが、小學校の教育教授を適當に行ふ準備として豫め入學前の身體情況を主として知るために行ふものであります。それで普通に小學校の入學準備として八ケましく質問せられるのは前者、卽ち入學を決定する檢定についての準備に關するものであります。

## 二

さて附屬小學校などの入學檢定では、專ら滿六歲兒として身體精神共に正常な發達をなしてゐるか否かを檢するものであります。從つて小學校の入學檢定では先づ身體檢査が行はれるのであります。滿六歲の兒童として身體が正常に發育し

てゐるか、四肢感覺器官等に著しい故障がありはしないか、身體が著しく虛弱でありはしないか等を檢するのが普通であります。故に小學校入學檢定準備としては、特に注意して風邪等の病氣にかゝらぬやうにせねばなりません。幼少な兒童に無理をさせて病氣にかゝらせるやうな愚を敢へてしてはなりません。檢定當日、病氣で著しく發熱してゐるやうでは檢定を受けることが出來ませんから、特に注意して兒童の保健に努めねばなりません。尤も不幸にして檢定當日病氣にかゝつてゐるときには決して無理をして檢定に出席させてはなりません。無理をしてまで檢定を受けさせるのは誠に危險なことで愚の骨頂といはねばなりません。

それから檢定の時、兒童の眼、耳、鼻等に故障の多いものが少くないのでありますが、是等は前以て、治療すべきものは十分治療し、手當をなすべきものは相當の手當をなすやうにすることが肝要であります。檢定當日になつて騷ぐやうではいけません。

## 三

兒童が始めて多くの教師の面前に於て、いろ〳〵のことをきかれるのが多くの入學檢定に於て普通のことでありますから、この點についても相當の準備を必要とする方があります。所謂うち辨慶で、お家では頗る賑かに何でも話をなし、うけ答をなし、時には頗る腕白でありおしやまで困る位な子供でも、他人の前では口を緘して一言も返事をせぬといふ者があります。また泣いてばかりゐて、檢定する者の問に一切答へずに通りすぎるものがあります。こんな子供さんは幼稚園に出すなり、また幼稚園を參觀させるなり、或は他人の中に出して遊ばせるなりして、人見知りをしないやうに慣らすことが肝要であります。あまりお宅にばかりゐて、おざいさんやおばあさんとばかり遊んでゐたり、女中や書生とのみ遊ん

でゐる子供の中には、往々はにかみ屋が出來ますから注意をする必要があります。それかといつて大人を小馬鹿にするやうな態度の子供さんが往々にしてあります。これは一寸特例でありますが、曾つて某附屬小學校の檢定で、大臣のお孫さんが受檢して次のやうな逸話を產んだことがあります。

「このボールを向かふになげなさい」と、檢定者がその子供に申しますと、

「僕いやだ」といつて容易にボールを投げません。そこで檢定者は、

「どうして投げないか」と、尋ねますと、その子供は

「そんな小さなゴムボールなんか投げない。地球のやうに大きなボールなら投げるけど」と、いつて頑として檢定者の命を守らなかつたのであります。これは附添への書生から受けた影響であつたらしいのであります。

その兒童に更に別の檢定者が他の檢定室で何を尋ねても決して答へないのであります。そしてそのいふことが頗る始末が惡いのであります。それは「先生のやうなものには答へない」といふのであります。この子供にはおぢいさんの大臣であることが强く印象づけられてゐたのでありませう。子供の周圍の人達がこの子供をおだて上げたもので、先生のいふことなどはきかないといふ誤つた考を一時でも起させたものであります。誠に恐るべきことであります。

また別の話でありますが、一女兒が第一檢定室で走らせた時、他の子供より一寸おくれたので泣き出したことがあります、そしてその女兒は第二檢定室で泣きつゞけて凡ての檢定者の問には一切答へないのです。そして走つたときに一寸まけたのがくやしいからやり直すと固執して動かないのです。これも頗る我儘な兒童であり、殆ど答へず仕舞であるからその得點は零であり、無論不合格となるより外ないのであります。素質からいへば不合格になる子供でないかも知れませんが、こんな我儘な者を强ひて入學させねばならぬことは毫もないのであります。

## 四

小學校入學檢定準備として、「どんなことを教へねばなりませんか」といふ答に對しては、直に「何も教へる必要がありません」と答へるのが普通であります。すると重ねて「それでも數は百まで教へねばなりませんか」とか、「私のところの子供は五十まで勘定出來ますが、それから上は出來ません。それでもよいでせうか」などゝいはれる親が多いのであります。實はかゝる親達に對して私は誠に答辯に窮するのであります。何故かといへば、漸く滿六歳になつたかならぬ位の幼兒を大人同樣に考へて居られる親達の誤謬を容易にとくことが出來ないからであります。卽ち數詞と數觀念の發達とを全く混同してゐる親達や保姆の誤謬を根本的に打破するに頗る骨が折れるのであります。

しかし私は玆に一つの實話を述べてかゝる親達並に保姆の熟考を促すことにいたしませう。それは

曾つて郡山驛から五歳位の女兒を連れた一紳士が汽車に乘込んだときの私の見聞談であります。初の間はこの女兒は二等車の座席がすいてゐたから、上つたり下りたりして遊んでゐました。幼兒が頗る活動性に富んでゐるのは男兒でも女兒でも同じであります。多くの親達は「何です女の癖にお轉婆をして。靜かに腰かけてゐなさい。」とたしなめもするところでありますが、その女兒の父親は頗る寛大であります。教育的な識見があつてか、またお友達との話に夢中であるのか、兎に角女兒の活動するに任せて何等の小言もいはず放任してゐます。しかしその中に女兒の方もあきが來たのでせう。しきりとお父さんの手を引張つて、「早く汽車を降りませう」とせがみます。父親はまだ下車すべき宇都宮に來ないのですが、あまり女兒がせがみますので仕方なく、

「サア下りませう」といつて座席を立上りました。けれどもまだ降りる譯に行きません。尤も女兒は父親が立上つたの

で、下車することを直ぐに忘れたのでせう。今まで引ぱつてゐた父親の左手の指を、親指の方から數へ出したのであります。そして、

「一つ、二つ、三つ、四つ、五つ、おとうさんの手も五つあるといつて女兒は驚いてゐます。すると父親は心あつたかどうか分りませんが、その左手を裏返して掌を女兒に向けたのであります。恐らく特に教育的な考があつた譯ではなく、「おりよう〳〵」といふ女兒をだます一手段としたものでせう。しかし女兒は父親の左手の指を今度は子指の方から數へて、

「一つ、二つ、三つ、四つ、五つ、こゝからも五つある」と、再び驚いてゐます。更に二度も三度も繰返して、一つ、二つ、三つ、四つ、五つと數へてゐるのであります。すると父親は左手の代りに右手を女兒の前にさし出しましたので、今度は右手の指を數へ始めました。矢張り、

「一つ、二つ、三つ、四つ、五つ」と繰返して數へ、「この手も五つある」といつて不思議がつてゐます。

その中に、列車は宇都宮に着いて、かの女兒は父親と共に下車したのであります。

この實話によつて次の事項に注意して頂きたいのであります。

(一)五歳位の幼兒は手と指とを區別してゐないこと、指でも手といつて平氣でゐること。

(二)何でも實物を「一つ二つ、三つ、四つ、五つ」と數へることこと。まだ「一、二、三、四、五」、と數へることが出來ないこと。勿論「一本、二本、三本、四本、五本」と所謂名數として數へることが出來ないこと。そしてビスケットでもお蜜柑でも必ず實物を「一つ、二つ、三つ」……と、數へることを繰返すことによつて、次第に實物をはなれて一つ、二つ、三つ、四つ、五つといふ稍〻抽象的な數觀念が發達すること。

(三)幼兒は初め實物について「一つ、二つ、三つ、四つ、五つ」と數へてゐるが、右から數へても五つ、左から數へても

五つであること、自分の手も五つ、おとうさんの手も五つであること、右の手も五つ、左の手も五つであること等は五歳位の幼兒には新しい大發見であること。

等に注意して考へねばなりません。一體大人からいへば五つの觀念と五の數觀念と何等の差異がなく、その數觀念と五つ、また五の數詞とは密接不離のものとなつてゐるが、五の數觀念の發達階梯にある幼兒では、大人の觀念と大に異なるものがあります。それで一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、などゝ、數詞を記憶してそれを鸚鵡返しに言つても決して十の數觀念が明白に發達してゐるとは限りません。「私の子供は數は五十まで知つてゐますとか、百まで知つてゐます」とかいはれる親があります。しかし滿六歳の子供では、數詞として百まで順次に言ふことが出來ても、決して百まで誤りなく實物を數へることが出來ませんし、百の數觀念どころか、十以下の數觀念でも明白になつてゐないのであります。

私どもが小學校入學檢定に於て、釦を四つ出して、

「いくつあるか」と問へば、その答に次の如き段階があります。

(一)すぐに「四つ」又は四と答へるものがあります。この子供は四を直觀して全く數へることなく直に四と答へることが出來るもので數觀念の發達した子供であります。

(二)釦にさはらないで頭の中なり眼なりで數へて「四つ又は四」と答へるものは次位に數觀念が發達した者であります。

(三)釦について「一つ、二つ、三つ、四つ」と數へるものは充分四の觀念が發達してゐません。

先づ釦を四つ出していくつかを尋ね、次に更に三つ出して皆でいくつあるかと尋ねると、その答によりて次のやうになります。

(一)直に七つ又は七と答へる兒童は滿六歳の兒童としてよく七の數觀念が發達してゐるものであります。

(二)四つに三つと頭の中で考へて七つまたは七と答へるものは次位であります。

(三)四つに一つで五つ、それに一つで六つといふやうに、實物に觸れないで、七つと答へるものは第三位であります。

(四)四を一團としてそれに五つ、六つ、七つと三の實物を數へ足して七つと數へるものは更にその次であります。

(五)四つの實物と三つの實物とを初めから悉く數へて七つと數へるものは滿六歳の兒童としては數觀念の發達が多少おくれてゐるものであります。

かくの如くであるから幼兒の數觀念を發達させるには、大人の數觀念を押付けて「四に三足せば七ですよ」、「四に五を足すと九」、「九から二を引くと七」などゝ教へるやうなことは禁物であります。成るべく機會あるごとに實物を數へさせるやうにせねばなりません。「このビスケットがいくつあるか」、「このキャラメルはいくつあるか」、「この蜜柑に袋がいくつあるか」、等と子供に尋ねて實物を確實に數へるやうにせねばなりません。そして次第に數範圍を擴大すると共に、五以下の數は一々數へなくとも直に答へられるやうに數の直觀が出來、更に實物をはなれて抽象的に數觀念が發達するやうにせねばなりません。

## 五

これも特に入學檢定の準備といふのではないが一般に幼兒教育上重要なことであるから述べます。それは成るべく幼兒の感覺器官を働かせて、幼兒自身がいろ〳〵の事物を觀察するやうに導くことです。例へば「甲の林檎と乙の林檎とどこがちがつてゐるか」と尋ねて、子供にその二つの林檎を見くらべさせてその相異を發見させるやうになすことがよいのであります。幼兒にも甲乙二個の林檎を比べてその相異を二つや三つ、明白に發見出來る筈であります。それを大人が甲の林檎

ご乙の林檎とがく〳〵の點が違つてゐるから、よく覺えて置きなさいなどゝ、大人の觀察比較の結果を幼兒に記憶させるやうなことは頗る非教育的であります。子供が甲乙の林檎をよく觀て、よく觀比べてその相異を發見することによつて、その子供の觀察が精密となり、その觀察力が發達するのであります。また比較觀察をすることによつてのみ明白となるのであります。子供に次第に發達するもの等、いろ〳〵の觀察型があり、それ〴〵發達階程があるのであります。單に大人の觀念を押付けよつては色に注意するもの、形に注目するもの、大小に或は輕重に注意するもの、更に光澤に注意するもの、または內部や味にまで注目するもの、て死んだ知識を多く子供の頭腦に注入せんとするが如きことは頗る禁物であります。こんな檢定準備は却つて兒童をあやまらせることになります。檢定の時、教師の問はないことをお話する子供が往々にしてあります。それは家庭や幼稚園に於て「こんなことがキット出るから」との當推量から、幼兒に器械的に死んだ觀念を注入した結果であります。檢定する方ではそんなことで幼兒の能力檢査をいたしません。それでごこまでも幼兒が正常な精神發達をなすやうに幼兒各自の心身を働かせることが肝要であります。

# 幼兒の遊び（二）

牛島義友

## 第二部　遊びの指導

前篇に於て述べた幼兒の遊びの事實や、遊びについての理論的考察から、遊びの指導について若干考察を進めて見たいと思ふ。

**一、遊びは生活への準備である。**子供は何故遊ぶか、と云ふあの面倒な論爭に讀者を引込む積りはないが、子供の遊びの本質を知る爲にはグロースの準備說に一應傾聽する必要がある。スペンサーは遊びの成立原因として有り餘つた精力を擧げてゐる。生活に必要な丈の力しか持たない者には遊びと云ふ事はないが、精力の有り餘つた場合に生活と關係のない遊び事にそれを發散させると說いてゐる。從つて遊びは實生活と關係のない無益の活動の樣に考へられてゐた。之に對してグロースの準備說は遊びの持つ意義を一層正しく見てゐる樣である。一見無意義な無駄な行動にしか見えない遊びも實は將來の生活への準備であり練習行爲であると見て遊戲の重要性を說いて居る。此の二つの說は一見矛盾する樣であるが、理論的に必らずしも矛盾するものではない。人は何故食事をするかと云ふ問に對して、空腹になつたからだと云ふ原因的の說明と、生活活動を續ける爲だと云ふ目的的說明があり得る樣に、子供は何故遊ぶかと云ふ問に對して、過剩精力と云ふ原因を擧げる事も出來るし、又生活準備と云ふ目的を擧げる事も出來、此の二つはいはゞ盾の兩面の樣なものである。併し子供を教育する場合には此の表の面、卽ち將來の生活に對する意義と云ふ點から遊びを指導して行く必要がある。精

力過剰說を取ると、遊びは安全瓣や暇つぶしで、結局遊び事となり教育の對象とはならない。さて然らば生活準備とは如何なる意味であらうか。人形を持つて飯事遊びをしてゐる幼女は將來主婦となる場合の準備をして居るのだと云はれる。併し此の考へは餘り行き過ぎて居る。此の調子で論ずるならば、自動車をいぢつて遊ぶ男兒は將來運轉手になる準備をして居る事となり、親の持つ高い理想に反して困つた事になる。生活の準備と云ふのは、以上の樣な意味ではなしに精神機能を練磨し、運動機能を練習して間接的に將來の活動に具へてゐるのである。子供が人形を持つて遊ぶのは子供が日常見聞して蓄積した身のまはりの知識を思ふ儘に活動させて樂んでゐるのである。自動車を持つて遊ぶのは彼等の最も好きな自動車、表に出た時に第一に注意を引く自働車に就いての色々の觀念を自由に驅使し想像して樂んでゐるのである。又三輪車に乘り廻したり獨樂を廻して遊ぶのは筋肉の發達と平衡力の練習とか運動調節の稽古となつてゐるのである。斯る身心の機能の練習が遊戯の目的であつて遊びの內容が練習目的ではない。故に形式陶冶とでも云ふべきものである。

では子供は如何なる機能の練習をしてゐるかを見るに想像的活動に關したものが最も多い。之は玩具の種類を見ても又遊びの種類(第二表、第三表)を見ても首肯される事である。此の想像的機能は幼兒期の中でも三、四歳に特に多く、六歳になると多少減少して之に代るに知的遊戯が增加する。卽ち自分一個の想像を樂しむ狀態から事物に向つて働らきかけ、物を組立てたり、こしらへたり、(積木、手技)する現實的知識に向つて行く。現實から離れた單なる空想は何ら意味をなさないもので、現實に則した工夫、想像が文化を進めて行く。故に子供の遊びを指導する場合に此の方向に向つて行く必要がある。想像的遊戯は三、四歳の子供には充分意味のある生活準備ではあるが、五、六歳の子供は寧ろそれから脫却し、現實的知識に轉換さすべきで、知的遊戯を奬勵すべきである。知的遊戯としては前稿第九頁にその種類を擧げ又知的遊戯

に關した玩具としては「拙稿幼兒の玩具」に具體的に掲げておいた。

運動機能に關した遊戯の必要なのは論を俟たない。

**二、遊びは教育ではない。**遊びが生活準備であるならば計畫的に準備、卽ち指導する事が必要となつて來る。併し此の場合の指導には餘程の注意が必要になつて來る。かう云ふ遊びが適當であるとの理論に基づいて一々子供に手を取つて教へ、かうしなさい、あゝしなさいと一々指圖したのでは駄目である。それは教育であつても遊びではない。第一子供が承知しない。こんな六づかしい遊びに對しては「もう止めた」と云つて逃げ出すであらう。遊びはあくまで遊びであり、自由な自發的な生活表現である。故に知的指導の態度で遊びを指導すべきではない。此の意味で遊びは教育ではない。然らば如何にして遊びを指導するか、此の問に對し二つの答が得られる。第一は子供と共に遊ぶ事である。先生、或ひは母親としてゞなく遊び相手として子供と共に遊ぶ事によつて子供を適當の遊びに導く事が出來る。子供は大人が自分と一緒に遊んでくれる事を何よりも望んでゐる。故に此の方法は最も容易な指導法である。フレーベルはかくして子供を指導した。子供と對立しては命令する事は出來ても指導する事は出來ない。內心よりの服從がなくては指導は出來ない。此の服從は自分と共に遊び、共に考へてくれる人にのみ向けられる。

第二には適當な遊びの環境を作る事である。子供と共に遊ぶ餘裕のない親でも、適當な環境を作る事によつて間接に遊びを指導する事が出來る。此の爲には適當な玩具とよい遊び友達を選定する事が必要である。玩具に就いては既に述べたが遊び相手については後で觸れる事にする。

**三、大人の遊びと子供の遊び。**大人の遊びも子供の遊びも一口に遊びと云つてゐる。併し兩者は本質的に相異するものである。多くの研究者も此の事を明示してゐるが尙論じ足りない點があるから詳しくのべる。

大人の遊びは仕事との關係に於てのみ考へられる。仕事をしない狀態、それが消極的休養であるにしろ、積極的氣分轉換であるにしろ、義務的の仕事の場面から解放された時に遊びの生活が始まる。大人の世界では遊びが同時に仕事になる事はない。職業スポーツも觀衆にとつては娯樂であるが、選手自身にとつては眞劍な生活鬪爭であり、その勝敗が直ちに彼等の生活問題となつて來る。彼等はその運動からはなれた時にのみ遊び氣分になれるのである。

大人にとつて、遊びとは仕事の中に枠付けられた世界である。仕事の世界は眞劍な現實的な眞實の世界であるが、遊びの世界はそれらの世界から隔絕した治外法權的な世界である。そこでは人爲的の約束の範圍內で行動する假想的の非現實的のごうでもよい世界である。一定のルールの許にプレイをする世界である。仕事の世界では一定の業積を上げる事、勝利を占める事が最も重要な事であるが、遊びの世界では一定の約束の下に行動する事が要求される。卽ちルールを侵さないフェアー、プレイが要求される。然しかゝる約束といふものは眞劍な仕事の場面に於ては無意義なものである。例へば戰爭の場合にはあらゆる約束が無視され、そこでは勝つ事のみが要求される。ゲームでは負けても恥ではないが、戰爭に敗北する事は最大の恥辱であり、國家の滅亡となる。

此の樣に大人の世界に於ては仕事と遊びとが嚴然と區別されてゐる。

之に對し幼兒には仕事的のものがまだ存在してゐない。仕事は小學校に入り色々の勉强を强ひられる樣になつてはじめて發生する。それ以外の仕事とはせい〳〵子守りとか、お使ひ位である。併し是等のものでもまだ仕事的意識を持たぬのが普通である。從つて彼等には大人の意味に於ける遊びと云ふものは存しない。彼等の遊びは大人の場合のやうな生活の消極的場面ではなく、遊びが彼等の全生活である。そこに於ては未だ遊びと仕事とが分化されてゐない未分化の狀態にある。彼等にとつては遊びが同時に仕事であり、仕事は遊び乍らなされる。否、かゝる遊びとか仕事とかいふ概念を用ひる

事が既に適當でない。かゝる性格を持つた子供の遊びから、彼等の獨特の遊び方といふものが生じて來る。

例へば彼等は遊んでゐる中によく喧嘩になる事がある。喧嘩は遊ぶ事でなく眞劍な爭ひである。卽ち仕事的の性格を帶びた事件である。大人がゲームをして喧嘩したら仲間から彈劾されてしまふ。大人の遊戲には喧嘩はない。喧嘩は遊戲が仕事的性質を帶びた時にのみ發生する。例へば賭博の如く勝敗が同時に損得になる場合によく喧嘩になる。或ひは對校競技の如く學生といふ特殊な生活を營み、比較的に仕事的意識の薄弱な子供の世界と大人の世界との中間的存在である青年のスポーツの場合にのみ競技が喧嘩になる事がある。然るに子供は始終喧嘩をする。それは彼等の遊びが仕事的性格を反面に有してゐる爲である。或ひは泣くといふ現象も同樣である。子供はよく泣く。子供は泣き蟲だといふ。泣くのは彼等の本能的性質であると考へられる。併し之は單に本能のみではなく彼等の生活形式がさうさせるのである。遊びといふ樂しみの中に、何故泣くといふ悲しい事が起らねばならないのか、それは彼等が遊びを樂しみとして娛樂として味はつてゐるのではなく、遊びが彼等にとつては眞劍な生活である故に、思ふ樣にならない時には泣くといふ深刻な表現をなすのである。吾々の遊戲觀察の場合にも屢〻子供は泣いてゐる。

以上の子供の遊びの特異性から遊戲指導の原理が發見される。但し今度は子供を大人にするのではなく、子供の世界を一層充實さす事を考へねばならぬ。前述の大人の生活、仕事と娛樂とが分離した狀態は決して好ましいものではない。此の狀態こそ近代生活の惱みである。過去に於ては仕事と遊びとが左程分離してゐなかつた。興味が湧けば損得を度外視して仕事に專心するが、氣に入らねば仕事をしない職人氣質、彼等はたしかに仕事を樂しんでゐた。今日に於ても藝術家、學者、或ひは眞の實業家は仕事そのものを樂しんでゐる。專心研究に沒頭しても苦痛と感ぜず、遊びと同じ樂しみを持ち得る生活こそ人間生活の理想ではなからうか。

又此の點から考へると婦人の家庭生活に對しても新しい光が投ぜられて來る。家庭婦人は實に忙がしい。十六時間勞働と云ふ恐るべき勞働强化が何所の家庭にも行はれてゐる。それにも拘らず勞働爭議もなく、過勞の弊害も起らないのは此の勞働が實は勞働ではなく、樂しき仕事、此の意味で遊び事であるからである。他から强ひられる事なく、自から愛する夫や子供の爲に盡す事は妻として母として最大の樂しみであらう。此の遊びと仕事との融合した生活たる家庭生活は決して束縛された奴隷生活ではなく、人類文化の溫床である。此處に於て最高の創作たる人格創造としての教育がなされてゐる。而も之に主として携はるものは母親である。

斯かる仕事則遊びの狀態こそ亦子供の生活である。故に吾々は子供の遊びを大人の遊びに變へるのではなく、子供の遊びを充實させ完成させる事に向はねばならない。此の爲には仕事の意識の發生を防ぐ必要がある。此の場合の仕事とは義務的の仕事の意味である。斯かる義務的仕事感は學校教育と關係して發生する。卽ち子供の能力以上の負擔が課せられた場合に勉强は厭な仕事となつて來る。優等生には勉强は樂しみで心の遊びであるが、劣等生には苦しい仕事となる。斯る仕事感を抱かせずに教育する事が何よりも望ましい。此の點で自由主義的教育は正しい道を歩んでゐる。故に遊びを通して教育する事は最も效果のある事となる。

又學業以外の仕事を遊びに取り入れる事が好ましい。家の仕事、學校の掃除等を子供は喜んで、卽ち遊び的意識を以て行ふ。此の意味で適當に指導された勞作教育は子供に社會生活を教へる最良の方法である。

**四、道德感の指導。** 子供は眞劍に遊んでゐる。故に對手の不正に對しては怒り、不當の處置に對しては反抗する。子供と一緒に遊ぶ大人はとかく大人の遊びの積りで振舞ふ。大人に取つては遊びとは如何でもよい事であり、少し位のずるさは却つて無邪氣なユーモアを引起す。併し子供と遊ぶ時には此のいたづらは避けねばならない。大人に取つては如何でもよい事でも子供にとつては眞劍な權利侵害と感じられる。

又子供の爭ひに對する態度も同樣でなければならない。彼等にとつてはそれ〴〵深刻な理由があつて爭つてゐるのであるから、その重要性を買つてやり、輕々しく無視してはならない。斯かる審判者に對しては子供は信賴を持たなくなる。

**五、ゲームの指導。** 幼兒は殆んどゲームをしない。其遊戯種目を通覽しても、大部分は一人で遊ぶ遊びであり、數人一緒に遊んでも各自勝手な遊びをしてゐる。砂場に於ては如何に各人が忙しそうに色々なものを作つたり壞したりしてゐる事であらうか、其割に共同の製作はなく、寧ろ利害衝突でいさかひが起る事の方が多い。併し社會的訓練は共同的遊戯、特にゲームに於てなされるから、此爲に特別の指導が必要である。

幼兒がゲームをしないのは、彼等の智的能力が、そこまで發達してない爲である。ゲームには多く複雜な規則がある。野球の規則等は一々數へ上げたら大人でさへ一二日では憶え切れない。斯る複雜な規則を理解し、充分使ひこなし、一々の場面に應じて適當に處理し得て初めてゲームの面白さが味はへる。斯るゲームによつて規律、共同等の社會性、道德性が涵養される。處が幼兒には未だ斯る複雜な規則を理解する能力がなく、年長の友に仲間入させてもらつても、味噌糟として尻に付いて行くだけである。故に幼兒に對しては簡單な規則からなるゲームを敎へる必要がある。然しゲームには多くの問題がある。卽ちゲームには勝負が伴ふ、而も子供は勝つ事に重要な意味を感ずる。遊びに勝つ事は生活に勝つ事である。遊びは主として身體的運動機能に關係する。故に體の丈夫な子供は常に勝ち、生活勝利者としての優越感を感じる。此自誇が第一に問題である。併しそれよりも負けた子供の劣弱感の方が更に深刻である。體の弱い者は常に敗けねばならない。此積り積つた敗北の結果子供はいぢけてしまひ、自信を失ひ、社會生活が出來なくなる。少數の勝氣な子供は此敗北に發憤し、智能的方面で取りかへさんと努力するかもしれない、併し多くの者は小兒期の劣弱感に一生惱まされる。故に勝負事には特別に注意して指導しなければならない。常に負ける事がない樣に、一つの世界で敗けても他の世界では勝ち得る事を敎へ、自信を失はずに努力出來る樣に指導しなければならない。

**六、遊び相手としての母親。**最後に遊び相手の問題に一言しやう。子供は一時間に平均二人の遊び相手を必要として居る事が前研究で明かになつたが、斯る多數の者が常に子供の相手になつて居なければならない事は困つた事で、或學者は子供を出來るだけ一人で遊ぶ樣にさせねばならない、子供が大きくなれば一人で過さねばならぬ時間が多くなるが、斯る場合一人で樂しむ方法(讀書、蒐集)を知つて居らないと困ると論じて居る。此點は異論はあるが、兎に角子供は多くの相手を要し、其相手に影響されて、性格が形成されて來る事實は認めねばならない。故によき遊び相手が問題となる。

遊び相手として最初に現はれて來るものは母親である。故に母の問題から始める。母に向ひ、子供を愛せよと云ふのは無意味である。私は「子供を溺愛するな」と警告したい。小兒は保護を要求し、親は凡ゆる身の邊りの世話をしてやらねばならない。然し此態度を何時までも續けてはならない。子供は活動へ自由を要求する。自分で自分の事を處理する事を求める。此成長する者の當然の要求を、親は善惡に蹂躙する事が多い。何時までも一人で着物が着られず、顏を洗へない子供は母の責任である。度はずれたホーム、シックを起す青年は親の溺愛に因る。子供を溺愛する母は多く其結婚生活に缺陷が在ると云はれて居る。夫に充分の愛と滿足を感しない妻は其子に愛を振り替へる。其結果夫婦生活を一更不幸にし、然も愛する子供が、溺愛の爲にスポイルされ、歪められた性格の者になつて苦しむ場合が非常に多い。

母は高い立場から子供を愛しなければならない。此爲には子供が滿三、四歲にもなれば新しい遊び相手、卽同じ年頃の友達を與へねばならない。子供同志相互の交渉によつて始めて健全な性格の發展が見られる。

母親に對する警告に代り、父親に對しては「子供と遊べ」と警告しなければならない。吾々の調査によれば父親が子供の遊び相手となる事が餘りに尠い。自分と遊んでくれない人に對してどうして愛し、信賴する事が出來よう。子供は親を慕ふものだと定めるのは迷信である。如何に、親を憎み、他人は信じても親には從はない青年が多い事であらうか、之は子供と遊ばない親の報いである。

# 雪女

小川未明

雪の降る、北國の小さな町の話であります。みち子ちやんのお母さんは、みち子ちやんが、やつとお母さんのお顔が分るやうになつたころ、病氣のために、なくなつてしまはれました。お母さんは、小さいみち子ちやんを殘して行くことが、どんなに心がかりだつたでせう。

「私は、たとへ遠いところへ行つても、子供たちの身の上を守りますよ」

と、おつしやいました。そして、長女の花子さんに、妹の世話を賴んで、この世から去られたのであります。

みち子ちやんは、やさしいお姉さんがあつたけれど、あのなつかしいお母さんのお顔を忘れることは出來ませんでした。時々思ひ出しては泣きました。

「おゝ、お母ちやんを思ひ出したんですか」

お姉さんは、いろ〳〵みち子ちやんをいたはりましたが、やはり、みち子ちやんは、泣きつ

ゞけたのです。花子さんは、どうしていゝか分らなくなりました。

「お母さんが、いらして下さつたら、私たちは、どんなに仕合だつたでせう」

と、自分もいつしか涙ぐむのでありました。しかし、自分が泣いては、小さな妹が、かはいさうだと氣を取り直して、

「さ、おんもへ行つて、お母ちやんを見てまゐりませう」

と、花子さんは、みち子ちやんを負つて、家を出るのでした。いつしか、それが例となりました。みち子ちやんが泣き出すと、

「さ、おんもへ行つて、お母ちやんを見てまゐりませう」

そして、空に、まんまるく浮んだ月をさして、

「あれ、のゝちやんね、お母ちやんは、あそこにいらつしるのよ」と、いつたのであります。

みち子ちやんは、お姉さんの背中で、ぢつと月を見上げてゐました。その涙のたまつた清らかな眼の中へ、お母さんのお顔が映づたのでありませうか。

「お母ちやん」と、みち子ちやんは、からだを振つて、喜ぶのでありました。

花子さんも、いつしよになつて、月をながめてゐました。すると、やはりなつかしいお母さんのお顔が思ひ出されて、熱い涙が、自然と頰を傳つたのであります。

「さあ、もうお家へ歸りませうね」

夜風が、冷たかつたので、みち子ちんに風を引かせてはいけないと思つて、來た道を戻るのでした。

やがて、秋が過ぎて、冬になると、早くも雪が降りはじめたのです。

町の子供たちは、道の上へ、雪達磨や、雪女を造つて遊びました。中には、雪のお城を造つて、戰爭ごつこをしたのもあります。しかし、日が暮れると、どこでも早くから戸を閉めてしまひました。

みち子ちんは、こんな晩でも、お母さんを思ひ出すと泣いたのでした。

「お母ちやん、おんも・・・」と、いつて、せがんだのであります。

「けふは、外が寒いのよ」と、花子さんは、いつたけれども、みち子ちやんには、分りません。仕方なく、やさしい姉さんは、ねんねこで、みち子ちやんを負つて、北國の町にだけしか見られない、雁木の下を歩いたのであります。

物凄いやうに冴えた月は、雪の上を照らしてゐました。町の四角のところへ來ると、雪女が立つてゐたのです。子供達の手でこしらへたにしては、美しい姿に出來てゐて、黑い眉、赤い唇をしてゐました。

「かあちやん……」と、みち子ちんが、いひました。
「みち子ちやん、お母ちやんに見えて」と、花子さんは、立止りました。
「かあちやん」
と、みち子ちやんは、小さな手を出して、雪女に抱かれやうとしました。
「また、明日の晩來て見ませうね」
花子さんは、みち子ちやんの機嫌が直つたので、お家へ歸りました。
次の日の夜は、殊に寒く、さらさらといつて、小雪が窓に當つてゐました。みち子ちやんが、泣きましたけれど、今夜は、外へは出られませんでした。すると
「今晩は」
と、誰か、戸をたゝいて、呼ぶ聲がしました。出て見ると、體の雪を拂ひながら、女の人が入つて來ました。
「赤ちやんが、お母さんをお慕ひなさるときゝました。私は、かはいゝ子供をなくして乳が張つて困りますから、どうぞ赤ちやんに飲んでいたゞかうと思つて上りました」と、女の人が、いひました。
「まあ、それは、ご親切に有難うございます」と、家のものは、お禮をいひました。

みち子ちやんは、女の人に抱かれて、おいしさうにおつぱいを飲んでゐました。

「私は、こちらへついでがありますので、また、明日の晩もまゐりますから」と、いつて、女の人は、立去りました。

五日目の晩のことです。女は、歸る時に、「ごんごは、しばらく來られませんが、もし、なくなられたお母さんが、赤ちやんの、こんなに達者でお育ちになつたのをお知りなされたら、ごんなにご安心なさるでせうと」、いひました。

家のものは、女のいつたことが、妙に心に殘りました。花子さんは、どこかで見たことのある顏だが、どこの人であらうと、氣付かれないやうに、その後をつけたのです。女の姿は、町の四角のところまで行くと、煙のやうに消えてしまひました。

そこには、いつかの雪女が、もう溶けて、なくなりかけてゐました。見たことのある顏だと思つてゐた花子さんは、

「あつ」と、いつて、おどろいたのであります。

空にいらつしやるお母さんが、雪女をお使ひにおよこしなされたと知れたからであります。

（をはり）

# 事變と玩具

山田德兵衞

先日、日本人形研究會で人形作家の爲めにお能の著せつけ見學の催しをいたしました。

牛込矢來の觀世氏の能樂堂で行つたのですが、それが終つて「羽衣」を一番拜見し、お能の古典味を滿喫して醉つた氣持で散會しました。私等幹事四五名は樂屋へ挨拶に行きましたが、舞臺へ歸つて見ると驚きました。

仕舞の型など示して下つた子方の坊ちやんや、その他出演方のお子さんなど三四人が、手に〳〵棒や扇子を持つて舞臺を飛び廻り橋懸の欄干から觀席へ飛び降りたりしてゐるではありませんか。

見てゐますと、それは戰爭ごつこであつて橋懸の下は敵のトーチカなのであります。

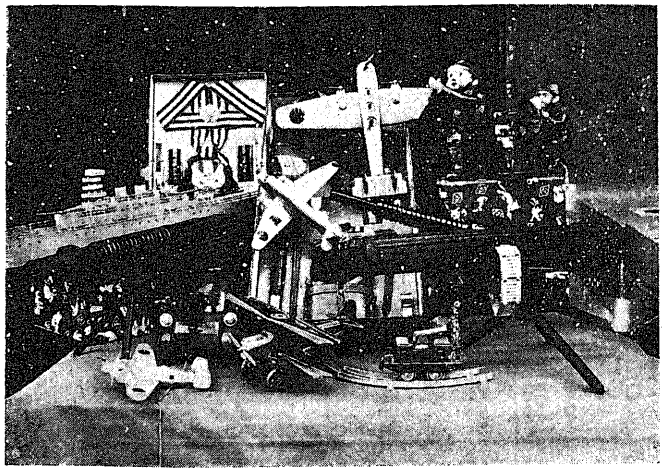
今の今まで、老松の前で天つ乙女が典雅な舞を舞つて居た能舞臺は、大人ごもが立去ると共に忽ち支那事變に於ける皇軍活躍の有樣がお子さん達によつて展開されてゐるのであります。（子方の坊ちやんは黑紋付のまゝで活躍してゐます）

私は啞然として見てゐましたが、やがて一人合點し、そして微笑せざるを得ませんでした。

これが確かに今日男の子の遊びの代表なのであります。いや、代表とか流行とかでは無い、殆ど全てでありませう。それだからお能の先生の坊ちやんでも囃子方のお子さんでも戰爭ごつこをするのに何も不思議はありません。場所が能舞臺であらうが、街路であらうがそんなことはお子さん達には問題では無いでせう。

從つて玩具屋さんから云はせると玩具の種類に大變化の來たことは當然なわけであります。

或る一二の百貨店の話によると、昨今の賣上げの半額は戰爭玩具であるそうです。尤も、戰爭玩具と一口に申しても色々な種類がありますが兎も角それに因んだものゝことです。その中で最も需要の多いのは新兵器だそうです。

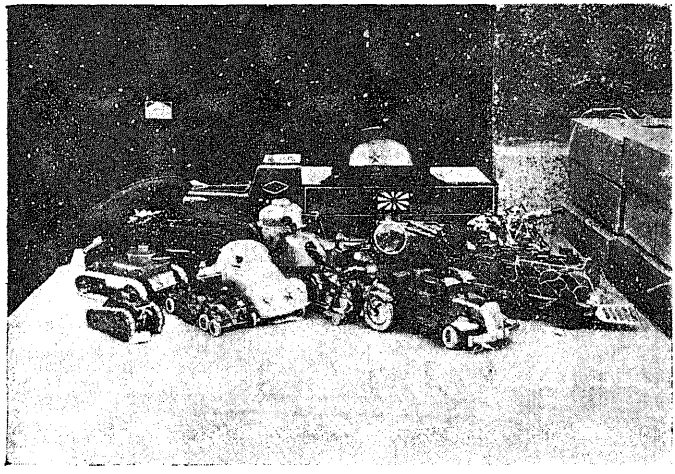


飛行機を第一に、高射砲、機關銃、戰車、及び武裝又はカムフラージした汽車、自動車、それから軍艦、航空母艦等。數で一番多く賣れるのは鐵兜、日本式軍刀、歩兵銃だそうです、これ等は戰爭ごつこの實演用といふわけで、鐵兜の外に戰鬪帽もなか〳〵多く賣れるようですが、勳章や肩章が餘り澤山賣れないのは實戰に餘り用ひて居ない爲めでせう。

その需要も、日々の戰地のニュース（寫眞又は映畫）の影響が頗る多いそうで、出發の旺んな頃にはそれに關係したものが多く賣れ、海軍の飛行機が活躍するとそれに因むものが賣れるそうです。何々部隊長が○○占領の勇姿が寫眞に出ると直ちに何かその影響が玩具賣場に現れるそうです。

新兵器なども世界大戰、上海事變等の時は、玩具屋さんが作つたもので滿足して買つて行かれたのが、今度はニュース等で見て來てお子さんの方から「あれは無いか？もつと新式のは無いか？」と要求されて百貨店

や玩具屋がたぢ〳〵であるそうです。



かくの如くに事變の影響で戰爭玩具が需要されて居ますが、それでは普通の玩具にどんな影響を與へて居るでせうか。前に述べた如く玩具の賣上の半額が戰爭玩具になつたといふ數字が適確であるとすると(もし男の子と女の子が同額の玩具を用ひるとすれば)男の子の普通玩具は殆ど全滅して、殘る半額は女の子のものゝみになるわけであります。

ところが面白いのは、女の子までが戰爭玩具に憧れてゐることで私が先日、出先で子供の戰鬪帽を一つ買つて來たら女の子が欲しがつて取り合ひが始まつて仕舞つて、とう〳〵年下であるために女の子の物になつて仕舞ひました。(こんなことは何處の御家庭でも有るのではないかと思ひます)

まだ面白いのは、先日或る百貨店の玩具賣場で女の子を連れた奥樣が店員に「何か女の子らしい脊嚢はありませんかしら?」と云はれたそうです。女の子が兵隊さんの脊嚢をあまり欲しがるので、思はず云はれた言葉なのでせう。女持の脊嚢——おもしろい話と思ひました。

そんなわけですから實際の數字として、女の子の玩具は非常に賣行が悪いそうです。お勝手道具とか、お手玉とかいふ樣な種類は大へんな減り方だそうです。

男の子が戰爭遊びをやる。それには是非或る人數が要る――ところで女の子も動員される。こんな考へ方も出來ませう。

も一つおもしろい話は、或る小兒科病院の傍の玩具店――それは殆ど入院のお子さん對象の玩具店ですが――その話に、こゝでも矢張り戰爭物萬能で、殊におもしろいのは鐵兜や、戰鬪帽、歩兵銃、軍刀等がよく賣れるそうです。

病床に横はりながらも、戰鬪帽を冠り、劍を握つて興じて居るお子さんの姿を想像して、私は何だか涙ぐましい氣がしました。

更らに小物（こもの）玩具の方の事を申しませう。

小物玩具とは壹錢貳錢五錢まで位の安物玩具のことですが、この方は更に猛烈に戰爭氣分を反映してゐるやうです。

それは安物だけに簡單に變化が出來るのと、お子さん自身がお金を握つて買ひに行くからでせう。

小物玩具の特徴は、一人が玩具を持つてゐると直ぐ他に流行することです。それは安いので直に買へることゝ、小物玩具を持ち遊ぶ土地柄では、お子さん達が多數街路等で集合して遊ぶ例が多い爲めでもあります。

但し小物玩具の方は殆ど戰爭ごつこ用のものであつて、器械仕掛けのものなどは勿論ありません。そして前に擧げた種類の外に、防毒マスクなどが仲々の人氣者だそうです。

それに「天に代りて不義を征つ……等の軍歌集の豆本が何程印刷しても間に合はぬ程賣れるそうです。（尤もこれは歡送等の實用も含んでゐるのでせう）

さて、以上事變が玩具に及ぼした影響をありのまゝ申述べましたが、かゝる時、指導の立場にある方々としてどんな風に導かれるのが必要なのでせうか。また、玩具を與へる親御さん方はどんな方針をこつたらよいのでせうか。これは私達が承りたいことなのであります。

たゞ、人形――殊に日本人形が殆ど事變の影響を受けないで賣れて居ることを附加へて筆を擱くことにいたします。

# 光と炭の挿話

林　太郎

## 一、光

明治の始めの頃であつたらう。正倉院の祕庫に納められて不思議ゝ千年の齡を保つた御物を一度蟲干をして日にも曝し風も通した方が良いであらうゝいふ事になつて、ある吉き日蟲干が行はれた。取り出された裝束はいづれも中々しつかりしたもので、見た處も手觸りも千年を經たものゝは思はれぬ若々しさであつた。裝束は絕えて久しき奈良の强い日の光を千年振りに思ふまゝに吸つたのである。幾時間か過ぎてさて再び納めやうゝして思ひがけないこゝが起つてゐた。今朝取りだしたゝきゝ形も色も少しの變りも見えないが、取あげやうゝすればちぎれ、あはてゝ引けば裂けて字義通り收拾すべからざる狀態ゝなつてゐたゝいふ。

この話は光のもつ不思議な作用を語つてゐる。物理學によれば光はエネルギーの流である。暗い箱の中に納められて千年の間光のエネルギーを與へられなかつた裝束は、もし普通に光のさしこむ室の中に置かれてあつたならば千年かゝつて徐に起るべき古び卽ち物質の變化が抑へられてゐたのであつた。それが日の光を飽くまで吸つて待ちかまへた千年の變化を一日にしてしまつたのであつた。

我々の生活に於ても日光は健康保持上甚だ重要な役割をしてゐる。日光の不足するゝきおこる大きな障碍は骨の發育の異常である。發育期にこの障碍がおこれば佝僂病ゝなつて、せむしゝなつたり足の脛の骨が曲つたりする。小供は寢てゐる間にもそだつ。健全に成長するためには小供に日光を缺いてはならない。小供は風の子、日の子でなければならぬ。

白色の日光はプリズムにあてるこ虹の七色の光に分れるが、保健上有效なのはこれ等の派手な色の光ではなくて、眼には見えない紫外線こよばれる光なのである。日光の中の紫外線は默々こして我等に働きかけてゐる。山に海に小麥色に肌をやくのは紫外線の作用である。

佝僂病はヴィタミンDこよばれる物質の不足するこきに起る事がわかつた。食物中に骨を構成する成分であるカルシウムや燐等が如何程十分にあつても、Dが不足のこきはうまく骨が出來ないのである。

そこでヴィタミンDを含む食物を適當に攝れば良いのであるが、Dは普通の食物では牛乳、バター、卵黄、鰯、鰊、鱈(殊に肝臓の含む油卽ち肝油に多い)、盛夏の菠薐草、干椎茸等に少量含まれてゐる位で一般の食物には殆ご含まれゐない。從て食物によつてDを攝る事は困難な事が多い。

所が紫外線こDこの間に密接な關係のある事がわかつて來た。それは普通のごの食物にも、又もつこ手近には我々の皮膚及皮下脂肪中にも含まれてゐる物質で、これに紫外線があたるこその光のエネルギーを吸つて化學的に變化をしてヴィタミンDに變るものがある事がわかつたのである。これ等の物質はヴィタミンD母體こよばれる。我々は日光にあたればそれでよい。皮下のこのD母體がDに變じるからである。

窓硝子は色のある光はよく通すが紫外線は僅かしか通さない。從て窓硝子ごしの日の光は氣の拔けたサイダーのやうなもので、生の日光でなければ有效でない。生の日光でも都會の日光は、都會の空氣が塵埃や煤煙を含み、これらが紫外線を妨げてゐるから、田舍の澄んだ日光程の效はない。子供には郊外の澄みきつた日光を時々は顏にも手にも足にも吸はせねばならぬ。

一九一七年の調査で、ニューヨークの貧困地區の白人の兒童の五〇%は佝僂病であつたが黑人兒童はその九八%が佝僂病であつたこいふ。後者が著しく高率なのは多分皮膚が黑くて日光が皮下に十分射し込まない爲だらうこ考へられてゐる。

## 二、炭

信州の伊那に園原こいふ山里がある。飯田から惠那山の

山中に數里登つた處である。

昔この里に藤太といふ炭燒がゐた。其の頃都のさゐ姫が、夫となる人は信濃園原の里に在ることを觀音の御告で知り遙々と園原へ尋ねて來た、來て見れば尋ねる夫は賤が伏屋に炭を燒く貧しい藤太であつた。ある日藤太は近くの池に水鳥の遊ぶのを見て姫が都から持つて來た黃金を礫の代りにして皆鳥に投げてしまつた。

歸つて語る藤太の話に姫は驚き、黃金の尊い事を語ると藤太は「あんな小石が寶になれば、わしが炭燒く谷々に、およそ小笊で山程ござる」と不思議に思ふ姫を炭燒竈に導いたがそこには黃金が山をなしてゐた。二人はたちまち長者となり伏屋の長者とよばれて長く榮へた。義經を平泉へ案內した金賣吉次は藤太の子であるといふ。

この傳說は化學から見ると興味のある話である。それは炭は鑛石から金屬を作るときに用ふるものであるからである。柳田國男氏の說によればこの傳說は風を送られてまつかにおこつた炭火が石から金屬を融かし出す不思議な力に對する感嘆からおこつた傳說であるといふ。

今我々は炭のもつ新な不思議の力に感嘆せねばならぬ。大正四年(一九一五年)四月二十二日の夕、イープルの戰場で獨逸軍が使用した鹽素に端を發して各種各樣の毒ガスが用ひられた。これを防ぐ毒ガスマスクは、吸ふ空氣を一度適當な方法で濾して毒ガス分を除いて吸ふやうにしたものである。殆ど二三のものを除いては如何なる毒ガスが來てもこれを除去する力をもつてゐるのが炭である。

マスクなしで呼吸しては一分間も耐へられない毒ガスを含んだ空氣がマスクの先についた茶筒の半分位の高さの管に小豆粒程の炭をつめた中を通る間に毒ガス分は殆ど炭にとめられてしまふのである。

一體固體の表面は氣體を吸著ける性質をもつてゐる。併し一瓦位の小石等の表面に吸著く氣體の量は勿論言ふにたりない程僅である。

マスクの炭が毒ガスを吸ふのも、毒ガスを表面に吸著けるのであるが一瓦の豆粒程の炭が毒ガスを吸著ける力は驚く程大きくて、數リットルの毒ガスを吸著ける事が出來る。炭には多くの割れ目が見えるが、その他に眼に見えぬ小

さな割れ目が内部に一面にある。その小さな割れ目は皆表面をもつてゐる事は言ふ迄もない。從て一瓦の炭粒もその内部の表面積を合せれば驚く程の廣さになるので百疊敷にもならうといふ。これが炭の驚嘆すべき吸著力の原因である。

さて茶の湯の炭、火鉢の炭、蒲燒屋になくてならぬ備長炭など炭にもこりごりの種類があるが、マスクの炭もこれと變りはない。唯活が入れてある。活の入れ方も種々あるが一法は數百度に熱して水蒸氣を通してやるのである。これを活性炭といふ。

歐洲大戰に於て大いに用ひられた活性炭は「名も知らぬ遠き島より流れ寄る椰子の實一つ、ふるさとの岸を離れて、なれはそも波に幾月」と藤村にうたはれた感傷の椰子の實の外殼を燒いて作つた炭であつた。日の丸辨當の梅干のたねでも活性炭は出來る。歐洲大戰末期にアメリカでは桃のたねを用ひたが郵便切手の消印に "Eat More Peaches" の標語を用ひたといふ。

膳眞規子先生の御遺志により、御遺族の方から金貳百圓を本協會に御寄附いたゞきました。故先生の御厚志の程をお傳へ申上げます。

日本幼稚園協會

# 幼稚園を覗く（四）

竹村一

倉橋先生、

「幼稚園を覗く」盲目の私が、數回に亙る愚論、愚感をお怒りもなく長々とお讀み下さいました事を感謝いたします。此稿を以て最後としようと思つてゐる矢先に、私の恩師膳たけ子先生の御永眠の訃に接しました。

悲しいといふ事、それよりも日本の國寶を失つたことの方が、どんなにか、痛ましく胸を打たれました。私は不幸にして北海道に旅行中にて、歸阪早々、上京しようと切符を求めました日は既に、御永眠の後三日目でありました。とうとう膳先生の御最後の御病床には御眼にかゝる事が出來ませんでした。

倉橋先生が鎌倉へ御訪ね遊されたことを非常にお悅びになられたと近親の方から承りまして、日本の幼稚園界の權威者と國寶としての存在者の最後の會見の如何に光々しく、如何に美しかつたかを追憶するだに襟を正さずにおれない氣持がいたします。

私は膳先生を偲ぶ會にも學校の講義日で皆樣と會合する事も出來ず、獨りで書齊に閉ぢ込もつて、じつとありし日の膳先生よりうけた御恩をしみ〴〵と考へてみました。ふと氣付いたのは、膳先生から、いたゞいた自然物の數々でした、こゝに机の上に竝べてみましたのは、ほんのその一部分でありますが、何年も、何十年も、先生が手づからならべられた自然物であります。

○

倉橋先生。

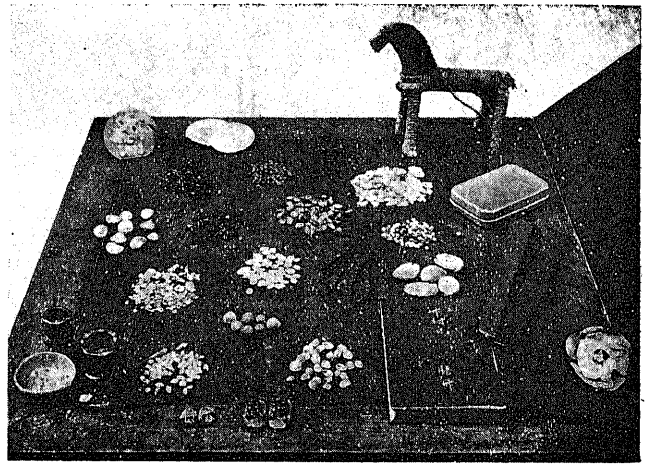
まあ御覽下さい、粘土細工のお皿も、筆立も、皆んな先

生の手でつくられましたもの、可愛い雪駄、雛人形、松かさの椿、さては先生の若き日に叩かれたピアノ代用の笏、このお辨當は先生が江戸堀幼稚園を退職される日まで持つて行かれたものであります。

中でも、私の肌身を離さず生涯の友としてゐる、膳先生からいたゞきました「人の教育」、向ふに立つてゐる藁の馬は、先生の親しいお友達が膳先生へとて送つて下さつたと云つて、常に先生の保姆室の机の後の硝子戸棚に入れてあつた品であります。

倉橋先生に、この寫眞を御眼にかけることが、せめてもの膳先生への追憶であり、又膳先生のおよろこび下さることゝ思ひましてこゝに寫眞に取りました。この外膳先生の受讀せられました書籍は全部、いま私の書齋の中にあつて常に私を勵まし、私を教へ、私を導いて下さつております。

「自然を愛せよ」「自然に親しめ」といふことは、膳先生の生涯の一面でありました。美しき自然を見る時、美しい木の葉を見る時、美しい木の實をみる時、小石を拾ふ時、貝殻を拾ふ時、そこには膳先生の御人格と御教訓を思ひ出さずにおられないのであります。



倉橋先生もそう御考へ下さるでせうね。

倉橋先生、

全日本保育大會で久し振りに先生の御元氣な御顔を拜見しまして、何となしにうれしい心持がいたしました。

「母」の會に於ける、あの素晴らしい何千名といふお母樣が先生を慕つて公會堂へ、公會堂へとおし寄せた事を思ふと、何と云つても、先生の御人格の光りの强さに感激させられました。日本保育界に於ける最高權威としての先生、日本の母の指導者としての先生、日本の保姆諸姉が神の如く敬仰する先生、私は此稿を終るに際して、先生の御健康を切に願つてやまないのであります。(昭和十二年十二月三日)

## お知らせ

皆樣御見逃しにはなりませんでしたか？　前月號からあの色刷り挾込みの廣告の一面が童話募集に變つて居りますのを。本號では普通の廣告として出て居ります。あの募集規定を御熟讀になりまして、前回にもまして、佳い作品を澤山御送り下さいますやうに願つて居ります。

（童話募集係り）

# 時局の保育、時局の影響を各地幼稚園に聞く

國を擧げて非常時一色に塗りあげられてゐるこの時局、自分の雰圍氣に敏感な幼兒達の心にもきつとどんなにかさまざまの影響がある事と信ぜられる。この道の同志相共に行脚しあつて、子供等の上を語り合ひ、發奮もし驚きもし且つは笑ひ合ひもしたいのが私共の願ひである。そこで各地の幼稚園の先生方に次の二項について御問合せをした。先生方は内外御繁忙の折柄にもかゝはらず、喜んで、御回答をお寄せ下さつた。こゝに厚く御禮を申上げる次第である。

私共は一堂に會し、胸襟を開いてこの事柄について語り合ふつもりで、各地の幼稚園の御方針、子供等の上を心に辿りながら拜見して行き度いと思ふ。

尙ほ御實行になつて居られる事や、子供等の樣子等引きつゞき、細大御報告下さるやうに切望して止まない。（編輯部）

**A、現下の時局、貴園に於て幼兒教育上注意し實行して居られる事に就て**

**B、現在の時局が如何に子供等に映じて居るか　それについての御感想等**

岩手縣女子師範學校附屬幼稚園　高橋（山田）タツ

（A）

一、應召者の家族慰問

皆樣お記憶の新なる事でございませう。去る七月日支事變が起りました。事件の重大化しない樣とに心密かにお祈り致して居りましたものゝ戰火は却つて擴大するばかりで空氣は日に日に險惡化して參る樣に考へられます。應召者の家の門札もあちらこちらに多數見受ける樣になりました。勿論私共園兒の家庭からも十人餘りの方々が勇躍壯途につかれました。其の都度さうした方々の園兒を取圍んでは御無事に凱旋出來ます樣にと一同で心をこめてお祈り致しました。同時にお父樣やお兄樣の出征してお留守である子供達をお慰めし元氣をつけてやる樣注意致しました。お友達にはよく其の譯を云ひきかせて一層仲好く遊ぶ樣にとお約束も致しました。此のお約束は案外子供達の間によく守られて實行されて居ます。

應召者の子供と雖も園に於いては今の所ちつとも淋しい變つた樣子が見えず、寧ろ誇り氣に元氣で朗かに見えます。其の他家庭の方には私共の力の及ぶ限りに於いて通信訪問等致して勵まして居ます。

二、神社參拜

毎月一日、十五日には一同に時局に關するお話をした上近くの縣社櫻山神社に參り、子供相應に武運長久をお祈り致して居ます。

又秋の日和には箒を手にして園兒は境内の掃除を致しました。眞劍に神樣のお庭を箒く姿。兩手を合せて祈る樣子、神樣も屹度何をかお感じ遊ばした事でございます。

三、國旗揭揚

午前八時十五分には朝の冷たい空氣をゆるがして響いて來る國旗揭揚の歌に合せて、國旗は靜かにゆるやかに空高く揚げられます。此の時園舍内外を問はず、どんな遊びに耽つて居る子供も自然に直立不動の姿勢をとり、國旗に對して最敬禮を行ひます。

此の時の雰圍氣は實に緊張した中に壯嚴なるものを感じます。

又朝の會集に於いては、皇居を遙拜して皇室の彌榮をお祈り申して居ます。

四、幼兒の體育上特に留意して居る點

1、榮養食指導

第二の國民の保健增進を願ふ所から家庭との連絡を計り、園兒の晝食時を利用して、偏食矯正、嗜好、榮養方面に注意して參りましたけれども、今尙考慮を要する點が多々見受けられますので、去る十一月二十二日には第一回榮養食試食會なるものを催しました。當校の講習科生の手になる榮養料理を、園兒と其の母姉の方々と試食を致しながら、本校家事科高橋キツ先生の

御話を戴きました。其のためか其後園兒の辨當には、家庭の嬉しい心遣ひが伺はれて頼もしく存じて居ます。今後色々の方法によつて、かうした會合を續けて參りたい考へでございます。

2、寒さに負けぬ子供に

北國は冬に入りますと雪の日が大部分でございます。此の自然の風雪に卽した生活を考へて、強い子供を作りたいと努力致して居ります。少し位の寒さにかじかんでストーブと親しむ樣であつてはならぬ樣、スキー、スケート、繩遊び等を多く取り入れ、元氣な風の子、雪の子供にして行きたいと思つて居ります。只今では園庭の一部に雪の山を築き、これを中心に盛んに活躍を致して居ります。

これからも時々園外に連れ出して大いに雪の中の保育を致す考へでございます。又軍歌を歌ひ乍ら雪中行進等をして意氣を鼓舞して行くのも樂しみです。

五、其他

家庭の貧富に拘らず節約利用は何時の時代にも必要な事でございますが、特に現時に於いては注意を要するものだと思ひ、先づ手技製作に於いては、材料に無駄のない樣に、其他水道燃料の使用にも保姆自らが心して取扱ひ、其の態度から子供を導きたいと思つて居ります。

（B）

Bの問題にお答をするために子供の環境と現在の生活の姿を書きつらね、然る後取扱ひ上の感想を申し述べて見たいと存じます。

私共の園兒の家庭は、當市に於ける殆ど中流以上の所でございまして、新聞雜誌は勿論の事、ラヂオの据付も相當にございます。

又園兒の中には此の頃のニュース映畫に連れて行かれる者が多い樣に見受けて居ます。其他市中からは毎日の樣に軍歌の叫びが漏れて參ります。かゝる環境に生活して居る子供達には、今回の支那事變の突發した七月以來、平素はきく事の出來ない時局語を隨分と覺えました。其の一例を申し上げますならば、トーチカ、クリーク、上海陷落とか、占領とか、南京空爆、燈火管制等で時局認識も相當に深まりつゝある樣に思はれます。例へば子供の話を横ぎきするに「日本は支那と戰をして居るんだ、日本兵は強い、支那は日本の云ふ事をきかない」等、又軍歌では相當にむづかしい內容をもつた、日本陸軍の歌詞を十番迄暗記して歌ふ事が出來ます。勿論歌詞の內容は理解して歌つて居るのではないと思ひます。

自由畫、積木に現れて來るものにも戰爭に關したものが大半を占めて居ます。自由遊びの大部分も戰爭ごつこに屬するもので、

子供達は全體として非常に活潑になつて、亂暴な位に思はれる事もあります。男兒に於いて特にさう感じます。此の樣に殺氣立つて落着きの薄らいで居る子供達に更に積極的に時局を認識させる事は幼兒にとつて如何なるものか研究を要する問題でございませうが、さりとて環境より自然に受ける此の時局熱を押へる事も出來ません。私共は只子供達の感じて居るものを正しく善導致したいと考へて居るものでございます。

以下申述べる保育豫定案は、其の考へで立案實行致したものでございまして、子供達の心の動きを捕へて遊ばせ乍ら靜かに、ナイチンゲールの戰場の勇士を慰める博愛の念も養ひ、又慰問袋を作り乍ら銃後の溫いつとめにも觸れさせた靜かな語り合ひをしながら、元氣な張りを善導致したいと念じて保育して居るものでございます。

尙ほ最近の保育の一端を御披露し御參考に供し度いと存じます。

最近一週間の保育豫定案

**年少組**

十二月一日水曜日　生活發表（兵隊さんに關したもの）
唱歌遊戯（日本陸軍、兵隊さん）
紙芝居（乃木將軍）

十二月二日木曜日　自由畫（武器遊具）
手技（慰問品、財布、お金）

十二月三日金曜日　觀察（繪本新聞切拔）
手技（肩章、勳章）
お話（觀察の後それ等を中心に）

十二月四日土曜日　唱歌（落葉の兵隊さん）—（新教材）
—無敵飛行氣少年航空兵
—（既習のもの）—
手技（双眼鏡、慰問品、慰問袋）

十二月六日月曜日　手技（慰問袋完成、切符、タンク）
遊戯（汽車、飛行機）

十二月七日火曜日　お話（時局に關するもの）
遊びの役割配當、
召集令降下の場面より出征兵見送り戰爭ごっこ迄、

**或る日の保育**

期日　昭和十二年十二月四日（土）午前十時より午後一時迄

題目　兵隊遊び中心

題目設定要旨（年長組にも共通）

時局熱は相當に高い。感受性の強い子供達には時局に對する周圍の情勢を子供ながらに感じてゐることは彼等の遊びを通して實證されることである。話題の中心を聞くにつけ自由遊戯を觀るにつけ其の大半は戰爭ごっこ、軍歌等で、元氣を通り越し時には亂暴さも發揮して取扱上注意を要するものさへ多々見受ける。私共保育者は常に幼兒を取圍む環境の動きに注意し、子供の心の動きを洞察してそれを正しく導くことに努力すべきであると思ふ。かゝる意味に於て生活の中心を兵隊遊びに取つて見た。

十二月四日の保育豫定案表（年少組）受持保姆　井田淑子

| 項目 | 其の内容 | 生活訓練 | 期待效果 | 時間豫定 | 場所 |
|---|---|---|---|---|---|
| 自由遊戯 | 繪本觀察<br>オルガン積木遊び<br>かごめ〳〵<br>あやとり<br>飛行機とばし<br>雪遊び | 朝の御挨拶<br>お友達は仲よく<br>國旗掲揚時の態度心持 | 國旗に對し敬ひの心持<br>自由遊びへの興味 | 園兒登園より揃ふ迄<br>七時四十分頃より十時頃迄 | 園舎<br>内外 |

| 會集 | | | | 手技 | | | | 唱歌 | | | | 自由遊戯 | | 辨當 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 御挨拶<br>ラヂオ體操（用便）<br>雪のなげ鼻汁始末<br>木遊び<br>進軍ラッパ<br>舌切雀<br>砂遊び<br>仲よしスキップ<br>日本陸軍ボートこぎ | 遊具の始末<br>早く靜かに集合、樂器おうがひ<br>正しく合せる、當日のお約束をよく伺ひ守ること | 規律生活への初歩<br>年長への親しみ<br>心身爽快の情 | 十時十分より<br>十時三十分迄 | 双眼鏡（男兒）<br>慰問袋（女兒）<br>同品 | 準備後始末は早く一人で仕事をする事は人を頼らず立派に | 合作の喜び<br>兵隊さんを想ふやさしい心持 | 十時半頃より<br>十時五十分頃迄 | 落葉の兵隊さん（新教材）<br>無敵飛行機（既習）<br>少年航空兵 | 姿勢を正し歌ひ方に注意 | 勇ましい心持<br>落葉に對しての興味愉快なる感情<br>飛行機に對しての認識興味 | 十一時頃より<br>十一時二十分頃迄 | 友達さがし | お友達が見つからなくても泣かない事 | 食事の準備<br>食事後始末<br>食物に好き嫌ひを云はぬこと<br>御飯をこぼさぬやう食物に對して感謝の心持 | 十一時四十分より<br>十二時二十分頃迄 |
| | 遊戯室 | | | | 保育室 | | | | 遊戯室 | | | | 遊戯室 | | 保育室 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 自由遊戯 | 紙芝居（雀のお宿 桃太郎） | お座敷でかけ廻らぬ事 | 感情の洗練 | 一時頃迄 | お座敷 |
| 集合 | 歸り仕度 マーチ拍子 | 身仕度は早く御挨拶は忘れずに | 遊具を大切にする心持 | 一時より | 遊戯室 |
| 退出 | お歸りの歌 お話 | お友達は仲よく寄道しないで歸る事 | | | |

## 本日の生活の內容說明

### 自由遊戯

師走の風は冷たい。元氣旺盛な子供達はそれを厭はず早くから兄姉お友達或は一人で機嫌よく登園する。保姆は其の前に登園し、氣持よく子供達を迎へる。「お早う」の御挨拶も此頃は忘れないで出來る。何といふ力のある聲でせう。輝やきのある眼でせう。お玄關に一歩入れば、お家であつた事、見た事、聞いた事を得々として語る。發表する嬉しさ、聞いて戴く喜び——だが子供達は一々意識はして居まい。唯語りたいのであらう。大人の氣持で良い加減に取扱つてはいけない。男兒は積木ごつこ、飛行機とばしで大童、女兒はオルガン彈き、あやとりに夢中、さうした中に團體的な遊びを自然の中に取入れる。お友達への親しみも增して來る事と思ふ。氣分の惡い機嫌の惡い者は居ないか注意を拂ひ、全部の子供に眼を通し、愉快に過させる。

今日一日の生活への第一歩である此の朝、和やかな中にも生活訓練に力を入れ自然の中に良い習慣をつけさせたいと願ふ。特に留意して居るのは國旗揭揚時の態度と心持である。私共自ら敬虔な態度をとり、指導する。さはやかな朝の自由遊戯によつて童心の美しい芽が伸びて行く事を環境より推してうなづかせられるものがある。子供達の遊びを通してもよく分る。

### 會集

全く自由な世界に伸々と遊び、思ひ思ひの遊びに自己をいかしお友達同志仲よく出來る。一時を過した頃「お集り」の聲がかゝると各自の遊びを止め、後仕末も早く、おうがひや、お支度にかゝる。準備の出來た者から並ぶといふ子供達同志の申し合はせは何時の日も固く守られてゐる。會集に臨むに當つて、お並び迄のお約束はよく守らせる。八ケ月の幼稚園生活によつて隨分心の芽が開いて來た樣に思はれる。困つてゐるお友達を慰める默つてゐてもお手傳ひをする、何といふ純眞な友情の現はれであらう。

全部揃つて遊戯室に向ふ。樂器によく合はせ行進も立派にさせる。今日のお約束は、よく伺ひ、忘れない樣にと話す。

唱歌遊戯によつて尙一層愉快な氣分になるらしい。左右前後の區別のつかなかつたラヂオ體操も見樣見まねで間違へずに出來

る。別紙の通り會集には季節に因んだもの、二人でするものを選んだ。はつきり覺えて居ないもの、完全に習つて居ないものもあるけれど年長の方のを見て、一人殘らず最後迄する。スキップを取入れたのは子供達の切な希望である。得意になつて「嬉しい事この上なし」といふ樣な顏つきで力いつぱいに一廻りする。元氣な中にも子供なりに、心持も態度もきまりよく本氣でする樣にしむける。

手技

手技計劃の續きとして男兒には雙眼鏡を作らせる。一日のお仕事として一人で作るには困難の樣に思はれたので二人で合作させることにした。女兒には慰問袋と慰問品を作らせる。二組に分れてさせる。グループに分けてさせるものは一寸面倒でもあるが、物によつて、割にうまく指導出來るものである。この場合には其の子の得意なもの、興味のあるものをさせる方が結果として良く現はれる。又指導も樂であるが何時もこれに基くやらせ方では弊害が伴ふ恐れがあるから逆に取扱ふ事も必要である。慰問袋と慰問品は共同製作の部類であるから、割合、繪の得意な子供達には兵隊さんへ送る爲の自由畫を、帖り方の上手な子供達に袋を作らせる豫定であるが、子供達の希望も入れる準備はしてをく。說明はグループに分れてからはじめ、巡視する。準備、後始末は一人で自分のは勿論お友達の製作品も大切に取扱ふ樣、良い加減にしない樣にしむける。日頃の訓練が大事である。かうする事によつて、ものに對しての心持が違つて來ると思ふ。

作品を通して遊びへの喜び、興味、期待が尙更深くなる事であらう、又その樣に誘導しなければならない立場の私共である。

唱歌

手技を終へた者は自由に遊ぶ。全部揃つてから唱歌に移る。注意散漫の子供、餘り興味の持てない子供の位置を最初にきめてをく事が必要である。指導者の近くに居ないと、他の者の邪魔をし、騷ぎ出して了ふから成るべく眼の屆く所にをき、注意深く指導する。新教材「落葉の兵隊さん」は歌詞は三番迄あるが內容は複雜でなく、子供の生活に近いものであるから年少組に取扱つてもよいと思ふ。一番だけ指導する豫定であるが早く覺え「もつと其の次も」と希望する樣であつたら二番に移つて見たいと思ふ。最初に歌詞の內容を說明し、よくのみこませ、興味を持たせてから彈いて歌つてみせ、次に適當に區切つて少しづゝ歌はせて行く。すべてあきさせない樣に續けて行く工夫が肝要である。既習の「無敵飛行機」「少年航空兵」は子供達の得意の歌である。勇ましい、そして輕快な情の湧くものである。男

兒本位の樣であるが、女兒も結構興味を持ち貧けないで歌ふ。早く曲を覺える割に歌詞が曖昧で發聲方面も不充分である。合唱の時には氣付かないが一人で歌はせると良く分る。これ等を考慮して落度のない樣指導する。切迫感がないと懸命になれないものである。結果も勿論大事であるが、その過程に細心の注意を拂ひ臨機應變の處置をとる事が必要である。

自由遊戯(友達さがし)

全部にさせるといふのではなく、年長と一緒に加はりたい者が寄つて來てするといふ形で行く。前に數度して大變に興味があり眞劍になつてする遊びである。お友達に親しみの情の湧く心持の方から眺めても、注意力を練る方面から眺めても好ましい遊びである。度數を重ねる事によつて上手になりこの遊びを續ける大事な點ものみこみ、增々熱狂する。

寒くて遊びが不活潑の頃を見計らつてさせるのも一法である。喜びの餘り亂れさせない樣考へて續ける。又同時に子供達の疲勞の程度に應じて中止させる。

辨當

活動時間が相當に長い丈にお腹もよくすく。保姆も準備を手早くして、すつかり整つた中に子供達を迎へる。

食事教育はいふまでもなく、重要視しなければならない事であるが、子供に應じた無理のない方法でなければいけない。戴く間だけでなしに食事前後の躾に注意する。大體顏つきを見れば用便が濟んで居ないか分るから粗忽のない中に先手を打つこの心構へが必要である。

お手洗ひ、おうがひ、お仕度を順々に靜かにすませ、全部揃ふ迄お行儀よく待つ、綺麗に整頓されたお部室に氣持よくみんなと戴くこの氣分が雰圍氣が、幼い者の心の奥に殘つて行く樣願つてやまない。子供なりに食物に對し又親に感謝の氣持が湧く樣語り合ひの中にしむけてゆく。「戴きます」の御挨拶をして一齊に食べ始める。お隣り同志、お向ひの方も、そのお隣りもにこ〳〵。お話合ひも面白く進められる。子供の世界のニュースが傳へられる。子供の間で起きた問題はお互ひに解決して行く。共同生活の樂しさが此處にも伺はれる。時によつて榮養方面の事も具體的に話し、偏食、好嫌ひのない樣、無理の行かない程度にだん〳〵に導いて行く。「御馳走樣」も必ずさせ、後始末も各自にさせる。これ等のお約束は完全に守られて來た。

自由遊戯(紙芝居)

食後はすぐ大騷ぎにならない樣、健康方面から考へて、すんだ者より、お座敷で紙芝居を觀る。「雀のお宿」「桃太郎」は數ある中で最も喜ぶものであるから取り入れてみた。美しい繪を觀、

綺麗なメロディーを耳にして、とろりとした氣分になる。溶け入ることによつて情操陶冶の一端が養はれる事と思ふ。

集合退去

午後のお遊びは元氣を通りこして亂暴にさへなる。無理もない事だ。危險のない樣良い遊びへと導く。一時過ぎにお歸へり仕度をはじめる。遊具の始末は勿論の事、生活訓練の個所に記入してある通りに實行させる。

些細な事ながら子供達にとつては大切な事項である。途中困らない樣、幼い者には殊更身仕度を吟味する。美しい音樂によつて氣持を落着かせ機嫌よく歸宅させる。今日一日の終りであり、明日の生活への連續であるこのお歸りの一時を手落のない樣にと考へる。ともすると目的にばかり走りやすく、又其の反對に末梢的な事にこだはり、大事な子供の今の氣持をこはさない樣深く反省し、かたよらない樣に子供の伸びようとする芽をつみとらない樣、その指導に當らなければならない。

朝と同じに玄關に立ち、全部の子供を送り出す。

## 年長組

最近一週間の保育豫定案

十二月一日　水曜日　生活發表（兵隊さんに關するもの）

唱歌遊戯（日本陸軍、兵隊さん、航空兵）

紙芝居（乃木將軍）

十二月二日　木曜日　觀察問答（新聞切拔きの繪について）

手　技（軍刀、軍艦）

十二月三日　金曜日　自由畫（戰爭に關したもの）墨繪

手　技（飛行機、飛行船）

十二月四日　土曜日　お　話（ヒカウキ）

手　技（軍帽、看護帽）

十二月六日　日曜日　レコードコンサート（軍歌物）

手　技（帷、シグナル、汽車）

ハリエ（高射砲、兵隊）

十二月七日　火曜日　お　話（時局に關するもの）

遊びの配當、

兵隊遊び（召集令降下の場面より見送り

風景と戰爭ごつこ）

十二月四日の保育豫定案表（年長組）　受持保姆　高田尙

| 項目 | 其の內容 | 生活訓練 | 期待效果 | 時間豫定 | 場所 |
|---|---|---|---|---|---|
| 自由遊戯 | 繪本觀察<br>積木遊び<br>紙ヒカウキ始末<br>こゝはどこ遊具の始末<br>の細道紙屑の片付<br>ちやけ | 自分の持物<br>自發的の向上<br>國旗掲揚時の態度と心持 | 自由感の充實<br>國旗に對して尊嚴の心持 | 園兒の登園より一同揃ふ迄（午前十時四十分頃より十時頃迄） | 園舍內外 |
| 雪遊び | ごつこ | | | | |

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 自由遊戯 | お辨當 | 目由遊戯 | 手技 | お話 | 習集 | | |
| 紙芝居 雀のお宿 桃太郎 | 食事の準備 食事 後始末 | 椅子とり | 男：軍帽 女：看護帽 | とカウキ | マーチ 御挨拶 身仕度 お手洗 用便 ラジオ體操 雪投げ 木の葉 進軍 舌切雀 お正月 砂遊び 仲よし 兎ポートこぎ スキップ 日本陸軍 | | |
| 靜かに見る | 御飯をよく嚙む事 こぼさぬ事 殘さぬ事 食後直く走り廻らぬ事 | お友達が見つかりなくとも泣かぬ事 | 糊の使ひ方 後始末 | お手々おびざ脇見をしない | 何でも皆と揃へてやる 鼻汁 おうがひ | | |
| 感情の洗練 | 食事の作法 | 注意力 視覺 聽覺の練磨 | 製作とその喜び 兵隊遊びへの期待 | ヒカウキへの認識と興味 | 團體生活の喜び 心身爽快の情 | | |
| 午後一時頃迄 | 午前十一時 四十分より 同十二時二十分頃迄 | 午前十一時二十分より 同十一時四十分頃迄 | 午前十一時 同十一時二十分迄 | 午前十時半 頃より十時五十分頃迄 | 午前十時より 十時三十分頃迄 | | |
| お座敷 | 保育室 | 遊戯室 | 保育室 | 保育室 | 遊戯室 | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 集合 | 歸り仕度 | | |
| 拍手 | マーチ | | |
| 退出 | お歸りの歌 | 途中の歩き方 | 午後一時より |
| 供可愛ゆき子 | | お友達仲よく | 遊戯室 |

## 本日の生活の內容說明

### 自由遊戯

一日の過程の出發は朝である。朝の自由遊戯は言ふでまもなく家庭生活の延長であるから、自由の感じを充分に與へねばならぬ。保姆は園兒より一足先立つて登園し環境整理のため、きれいに淸掃して園兒を心より喜んで迎へてあげる。校門をくぐるとすぐ先生を見付けて遠くからお早やうと言ふ子供達、そしてお家であつた出來事をいろ〳〵と話して聞かせて呉れる。

幼稚園に入るとすぐ各々の遊具を持出して遊び始める。女の子供達はストーブの側であやとりとか繪本等を見たりして女らしく靜かな遊びに耽けつてゐる。男の子供達は少し位の寒さも何のその、積木遊び、戰爭ごつこ、鬼ごつこ等、五六人グループになつて遊びに一生懸命で、自由感を充實させて居る。子供の遊びはやはり生活の働き、環境、季節によりいろ〳〵變化する。此の頃、紙とコーキが盛に流行して來たのも、時局の影響とか、寒くて外で遊ばれない爲であらう。

でも仲間よりはづれたり、遊びへの誘導物がないために遊びへ夢中になれず、ぼんやりしてゐる子供達もある。

この樣な子供には自然に遊びを與へて充實させ、更に團體遊びへ導く樣指導してあげたい。

でも此の間特に力を入れる訓練事項は朝の御挨拶、おうがひ、自分の持物の仕末等はさる事ながら、國旗揭揚時に於ける態度、心持の涵養である。勿論私共保姆は敬虔な心持で注意するつもりである。

會集

各兒自分の思ふまゝに遊びの中に溶け込んで夢中になつてゐる十時頃大體の顏が揃ふので「お集り」といふ一語を放つ。この時遊具の後仕末、紙屑の整理には特に氣をつけて指導をなす。遊具等使用した人のみ片附けるのではなく使はぬ人もお手傳ひして早く片附ける樣にする。

おうがひしてから、保育室に整列し、誰がお休みしたか調べ、マーチに合はせて遊戯室に入り年少組と一しよになる。登園して居ても未だ見なかつた友の顏、年少組の弟や妹達、先生方や皆さんに御挨拶をなしてから年少組のお手本となる樣にとお約束をする。ピアノに合せ唱歌遊戯を和やかな感じの中で繰返す。

唱歌遊戯は個人的のものより二人組でする樣な團體的のもの、現在の子供の生活に一番近い季節及時局に關したものを選んで見た。これにより子供は團體生活の喜びを感じ、これが後の社會生活の第一歩と言ふべきものとなるであらう。喜びを通り過ぎて脫線せぬ樣緊張した態度と心持を作る樣に心掛ける。

お話

會集の喜ばしい和やかな氣分で先づお部屋に入り御用をすまして靜かに落付いてから一ヶ所に集めてする。「何のお話しませ」と問ふと、八分通りまで必ず「ヒコーキのお話」と答へる子供達である。子供の生活に接近されてゐるものであり、又憧憬の的であるヒコーキ、後の兵隊遊びへのよき誘導となるであらう。方法もいろ〳〵あるが今日は先づ繪本觀察、說明、問答より入り、童話に至らうと思つて居る。今日は特に脇見等して脇の人とお話しせぬ樣お手々はお膝にして聞く時の態度を指導する。お話を聞く事によりヒコーキへの興味は一層煽られる事であらう。

手技

一週間計畫の兵隊遊びの準備として今日は軍帽と看護帽とをつくる。

方法は幾つもあるけれど便宜上男女に分けて、男には軍帽、女

には看護帽とグループにしてやらせる。自分で出來る事は自分でやると言ふ自治的習慣をつけてゐるので、糊及び用紙の配布は子供に委せる。

畫用紙に輪廓丈謄寫したものを配布し、男兒にはその色は何色に塗るかを問答してからはつきりした色を認識させ、その後とりつかせ、女兒にも同樣取扱ひ、赤十字章に注意、クレオンの使ひ方にも注意し今日は特に糊のつけ方を指導す、一ケ所ばかり或は眞中ばかりつけぬ樣一體に同じにつける樣指導す。後仕末はお當番をきめてさせる事もあるが今日は各自が糊刷毛は必ず洗ひ落してしまはせ、紙屑は必ずちり籠に收めるお約束を守らせる。

自由遊戯(友達さがし)

手技作製の完成の速さはいろ〳〵であるから、出來上つた子供の順に遊戯室で遊ばせる。思ひ〳〵の遊びに夢中になつてゐる子供はそのまゝでよいが、遊べないものゝために、お友達探しと言ふ團體遊びをとり入れて見た、必ずさせると言ふのでなく、やり度いものだけやると言ふやり方である。これは前にもやつた事があり、とても興味のある、頭の働く遊びである。お友達を決めて二人一組でピアノの聞える間反對の方向によくマーチに合せて歩きピアノが止まると、自分のお友達を探し出し、探しおくれて、鬼に捕へられると二人ともぬかされるのである。見つからなくとも泣いたりせず一生懸命見つける事をお約束す。この遊びにより注意力は練られ物事が敏捷になり、素早い子になるであらうと思ふ。

お辨當

遊びの飽きた頃、そろ〳〵お腹もすいて來る。

保姆は手早くお机をふき、お湯やお盆の用意をして整理された中に、「お辨當の御用意」と知らせる。此の時はどの子も〳〵もすぐ集つて來る。お手々を洗ひ、おうがひしてバスケットとお盆をもつて暖飯器の中のお辨當を貰ひに來る。この時先生に對して、「有難度う」と言ふお禮の言葉を缺く事を忘れさせない、御茶碗にもりよく噛む事、殘さぬ事、ごはんをこぼさぬ事は勿論の事、今日はお食後は少し休んでから遊びにとりかゝる樣にとお約束をし、一同揃へてから「戴きます」と言ふ聲と共に戴く。子供の所を一廻り見て、偏食、榮養狀態、分量等に一應目を通しあまり極端なる子供がある時は家庭と連絡とつて注意をする。この時が幼稚園の中で一番たのしい一時であらう。いろいろ語り合つてゆつくり戴く。後仕末のお當番は毎日二人づつ代る〳〵お盆をふき、もとの位置に片附けておく。椅子等もお行儀よくならべる。

唯食べるだけでなくその作法、食事作法と言ふものに充分注意する。

自由遊戯（紙芝居）

ごはんも戴いた、思ふ存分遊んだ、子供達の身體は些か肉體的疲勞を感じた頃、靜かにお座敷に入れて紙芝居を見させる。上靴の脱ぎ方、坐つた時のお行儀、見る時の態度にもよく氣をつけさせる。

「雀のお宿」と「桃太郎」はもう子供が何回も聞いた昔物語りである。きれいな音樂を聞き、美しい繪を見ながら中には子供獨特の夢の世界、空想の世界に自分を生かして行く子供も多いであらう。そこで今までの身體の運動に對して情操陶冶の一端が得られ感情が洗練される事であらう。

おかへり

そろ〳〵お母さんのお側がなつかしくなる頃、「おかへりの御用意」と言ふ言葉と一しよに仕度に取りかゝる。エプロンの紐がとけて居ないか、ハンカチが落ちて居ないか等、服裝其の他に細心の注意をし、手落ちのない樣に注意し、オーバー等は出來るだけ、自分で着させ、かけられないボタンだけをして戴く樣にと言ひきかせ、人を賴らない習慣をつける。

うがひをすませ、バスケットを提げて保育室に整列する。おかへりと言ふと子供の心は急ぐあまり、先を急ぐのでおうがひ臺のあたりで衝突も多いからよく注意する。

マーチに合はせて遊戯室に入り圓形にならべてある椅子にお腰かけて、拍手する事によりすつかり心をおちつかせ、おかへりの時、途中の歩き方、お友達となかよく、より道しないで歸る事をお約束し、先生方やお友達にお別れをつげて今日の生活、樂しかつた事、うれしかつた事等、一日の喜びを胸にひめ、來週も又元氣で登園する事をお約束して可愛ゆき子供の曲に合はせ握手をして家路に向はせる。

福島、郡山幼稚園長　松山政治

（A）

○貴重なる紙面を、私共の意見を述ぶるために割いて下さつた、事を感謝します。

○私共は今回の事變を單なる時局などと考ふる事の出來ない程興奮して居りました。最初から此の事件の衝に當つて居り、自分等が片付けて行かねばならぬ樣な責任感に打たれて居つたものであります。

つまり職員一同は事變に當つて冷靜になり得ずに絶えず熱心に忠

君愛國の思想に燃えきつて居つたものでありました。職員は時局の進展に堪えず眼をさらし如何に前途の成行くべきか。如何にこれを保育に織り込行くべきか。について語り合つて居りました。

其の大綱とも云ふべき事、又幼兒に屬してゐる領分については會集を利用して、園長から又は主任保姆から其都度お話があり、更に各保育室では保姆か布衍して色々の事實を通して聞かせました。從つて幼稚園の子供は時局の話を聞くことに熱心で又よく知つて居りました。

○或時は遊戯室の壁間に北支要目の地圖を掲げて毎日戰況の進展に印を付けて示してやらうか等と語つた事もありましたが、それでは餘りに突飛にもなり相當無理にもなりそうなので實行せずに止めました。

○毎日庭園で國旗を揭揚する際には訓話を與へて皇國のいや榮に適切なる心を湧かさしめ、其の眞心を表はす機會を作りました。

○縣社は我が園から近いのを幸ひ、度々參拜して、皇軍の戰勝を喜び、その將士の武運長久を祈りました。

そうしてゐる中に子供の家庭から應召兵が出ました。園長以下の職員は、その子供の家を訪問して御祝儀を差上げ愈〳〵御出發の際には其の組の先生と子供とが御見送りを致します。當園から十一人の出征者がありました。おしなべて出征兵のある御家庭は、此事變に夥しい關心をもたれ、忠君愛國の思想も濃厚になれますので、國家觀念の上から幸福なことだと存じて居ます。

○さなきだに、近頃の子供達は、自分に關係がなくとも兵隊さんの出征にはその歡送に無中になつてゐます。而して今やそれが他人事でなく我が友達の家族の人の上ですから、それは極めて眞劍なものがあります。

○國民精神總動員强調週間中には、時局を幼兒の保育に織り込むに色々適切な日がありました。『出征將士感謝の日』などその一つであります。我園ではこの日、會集の席で出征家族の子供を全部前面に呼び出して『お父さんがお留守の爲め淋しいでせう。お父さんは今何處で戰爭してゐるの本當に有難いですネ』と慰めてやつたり、又は謝意を表しなどしました。一同も感激して其樣子をよく見てゐます。

その日に保姆は家庭を訪問致し、戰場に行かれた後の狀況や、お便りの有無等御伺ひ致し、聊かのお菓子等差上げて御慰問申上げて參りました。

○明治節の日には子供の親達も前々から申合せてありますので、相當參列して下さいました其式の後を利用して出征將士の母

子共に相揃ふて前面に出て頂き、はつきりと出征兵士であることを意識させ、今日の祝意に併せて感謝と慰安との意を表したのでした。勿論多少の贈物をさし上げます。相當面目を施された感もあり教育的にも意義の深かつたことと感じ銃後の護りに力强さを示した事が出來たと信じます。

○我が園の出身者中からも應召された方が中々ございまして、園長と主任保姆の許(園長夫妻は園創立三十二年になりました)へ暇乞に來られます。その折子供が歸らずに居りますならば幼兒の前に之を引合せて出征の感激を新にし、その門出を御祝致します。幼兒は驛への見送りは遠慮致しましても幼稚園の門前までは、日の丸の旗を揭げて萬歲々々を稱へつゝ御送りいたします、國旗はたやしません勇ましいものです。その時には丁度御兄樣でも御送りする樣な氣分で歡呼の聲も一と際はげしいものがあります。

○そして我が園からは事務の係であつた管輝先生が十月初旬に應召される事になりました。それこそ他所事ならず我が家の事の樣な心して毎日歌つてゐた軍歌を歌つて、賑々しく濃厚な御歡送を致しました。

○當園では、毎年『保育寫眞帳』を發行して滿了兒に配りますが、今年の如き事變に際しては、少しく趣をかへまして、『芋掘の日』に、畑の側で出征兵の母と子とを、とり立てゝ別にいたし、記念寫眞をとつてこれを戰地に送り、銃後に於ける母子の無事な姿を見て頂くと共に、この寫眞を永く記念帳に止めました。

○今や北支に上海に南京に、暴戾なる抗日支那の爲に嚴寒と戰ひつゝ身命を賭して御國の爲、東洋平和の爲に奮然と膺懲の劍を取つて居られる皇軍將士へは、唯感激と感謝の心を捧げる許りですが、この國難に當つて私共一人々々が自分の責任と思つて立ち上り、擧國一致の思想の許に幼き子等を非常時の國民として身心共に鍛練してゆかねばなりません。

(B)

現在の時局が如何に子供に映じてゐるか又その御感想を……

といふ事ですが、現在の時局は宣戰の詔勅があつたのでなく一種の戰爭事變であるから、我等の對外氣分には、或分の相違があります。日清、日露の戰爭の時に味はひました樣な敵愾心が大變變つて居ります。

あの頃は第一に支那敵國を「チャン〳〵坊主」とか「チャンコロ」とか稱して、極めて輕侮する樣子がありましたが、現在は一切これがありません。近衛首相の宣言が徹底したものか東洋平和の爲に抗日思想膺懲の爲にする事が判明してゐる樣です。

私共は新聞やニュースで戰線の樣子を見聞して戰時談や銃後の幾多の美談等をお話致しますが、大層眞劍に耳を傾けよく解つた樣に感心してゐます。

そして我が大日本帝國は正義の國だ、東洋の盟主だ。忠勇無比で強くて正しい日本の兵隊さん。これは幼兒の心にどんなに深くきざみつけられてゐる事か、お互ひのお遊びにも、何とはなしに語つてるお話にもよくその心の樣子が伺はれます。

そして又毎日子供の現前に展開される事實には著しい印象を與へられてゐます。

1、出征兵士を見送る狀態。幟、旗押し立てゝ見送る樣子。萬歲を叫ぶ歡呼の聲。國防婦人會、愛國婦人會等の今までになかつた服裝、防護團の服裝、等に對して。

2、玩具としての鐵兜。劍。銃の流行並にその遊び方の上にすばらしいものがあります。

3、歌ふ唱歌が凡て出征軍人見送りの時の歌で壓倒されてゐます。私の園では九月二十八日鎭守祭禮なので例年通り子供達にお祭り遊びを誘引致しましたが、お祭遊びが、活躍性を帶びた遊びであり、喜ぶ事に於ては別に變りはありませんがその掛聲が例年の樣な「ワッショイ〳〵」でなくて『天に代りて不義を打つ』と兵士歡送の勇ましい軍歌になつて昇き廻つたのは面白いものでした。

今回の事變は今の所何時迄續くか未だ解りませんが堅忍持久の力の必要なことは堅く覺悟させてあります。忠義心の總動員は一時的に流れる事なくもしや長期に亘つても堅忍持久の力で最後の勝利を得なければなりません。

又今回の事變は一足飛に對外的思想を幼兒發育の上に夥しく植付けて下さいました。人間の基礎を造る保育者たる私共はこれを契機とし正當なる對外觀念を與へ世界の盟主としての日本の價値を益々發揚する事に御奉公したいと存じます。

東京、大和鄕幼稚園　坂内ミツ

（A）

日本全國を擧げて心から日支事變に當つて居る今日、子弟を如何に敎育すべきかに就ては、親といふ親は勿論、敎育者としては大に考慮を要した處である。けれども幼兒はまだ話をした處で戰爭の何たるもわからず、正義の何さへも理解出來ないのであるから、幼稚園ではあまり深刻に印象させ度くない、あつさりと話して置き度いと思ふ。

園内では特別に事變の事を取扱はずとも、家庭に於て聞いて居

るし、世間が騒ぐにつれて其氣分になつて居るのであるから、幼稚園でも自然戰爭の話が出る、其時は子供と一緒になつて話をして皇軍の勇敢なる働きについて話をし、特に兵隊さんの功勞に對して感謝せねばならぬと話して聞かせる事は當然なすべき事と思ふ。

健全なる第二の國民をつくる素地は幼稚園にありといふも過言でない、圓滿なる素地をつくるには圓滿なる身體を要し、圓滿なる性格を要する、徒らに知的教育に偏せぬやう感情教育に力を致す事が大切である。感情教育は何時でも大切であるが、かうした時は上手に之を利用して力を致すべきである、當園では專門家を賴み自由畫を通して幼兒の素質を觀察していたゞき參考の資にして居る。又身體の方面では特に口腔、眼科も專門家を顧ひ家庭と協力して萬全を計つて居る。

園として積極的にした事は

一、慰問袋をつくつて送つた事

慰問品は各家庭から持ち寄つて貰つた。

慰問の手紙、自由畫、紙細工の虎、目出鯛、摺紙では三寶、かぶと等幼兒に作らせた。

一、出征して居らるゝ父親には特別に慰問袋を贈つた

一、慰問袋の返事が來た人のは一同に讀みきかせて一緒に喜んだ

一、上海陷落の時は、小旗を持たせ村の中を歩かせた

其小旗は幼兒に作らせた、南京陷落についても完全に陷落した公報に接した時は直ちに旗行列の出來るやう名々に旗をつくらせ、時の至るを待つて居る。

一、毎朝國旗揭揚をする

開園以來つゞけて居るので順番に當番をきめて其幼兒に揚げさせる。揚つた所で白地にあかくの歌を歌つて居たが、事變後は倉橋先生作歌「日本の旗 日の丸の旗」を歌はせる事にした。

一、遊戯や唱歌は兵隊さんのつくものを多く取扱ふ

男兒だけの遊戯は殊に多い、卽兵隊さん、進軍、送りませうよ兵隊さん、鼠の兵隊さん、木の葉の兵隊さん、律動の兵隊、水兵等、代る〳〵大將をきめ號令をかけさせた、陸軍の歌は意味がわかるとは思へぬが全部歌詞を覺え步兵工兵衞生隊といふ事位わかるので時々歌はせる。

(B)

幼兒の話題に事變や時局の話が出る事が多い、まゝごとの時屆け物をする番頭さんの役になつた子供が、おねだんが騰りまし

たといつて居るのを時々聞くがこれも時局の影響の一つであらう。

一部分の幼兒であるが、兵隊ゴッコをするに行進だけでは物足らぬ、二組に分れて戰爭をしたがる、時々突擊をしないと滿足出來ぬらしい、其時は空手にして實力本位、ゲンコツが唯一の武器、顏をひつかく事と頸をしめる事を嚴禁、必ず一騎打にて一人と一人、飽く迄正々堂々と戰はせる、見て居てもヒヤ〳〵するほど力の强い者も居る、突貫の出來る位の勇士の素地を養ふは今にありと思つて、側について見て居るからメッタに手出し口出をせず成行を見守る、勇氣のある末頼もしい者が多い、弱くて一騎打の出來ない人には自分が相手になつてかゝらせる、五人、七人と一束になつてかゝつて來る、弱い人にはお手柔かに、强い人には强く當るやうにして戰ふ事はかなり骨が折れるが、弱い人を强くさせ自信を持たせるには面白い、雙方クタ〳〵になる迄戰つてドッカと坐り込んだ時の氣持は忘れられない、年はとり度くないとつく〴〵思はせられる。

東京、本郷第一幼稚園　檜山京子

(A)

1、お父樣を戰地に送つた幼兒が、園では、いつもの樣にお友達や先生と、健康で元氣に樂しい日々を過ごせる樣に、

2、幼兒の自由遊に、戰爭ごつこはあつても、敵はあつても「敵は某」といふ事を、はつきり意識させない樣に、(敵は敵だけで幼兒は滿足してゐます)

3、幼兒との會話をむづかしい國際問題にひき入れないように。ドイツと仲よくなつたとかイタリーとお友達になつたとか解り易い、明確な事は別として成人にも考へられないような問題に會話がは入らぬうち未然に、子供の世界へ話題を向きかへる樣に、

4、「兵隊さんは戰地で寒いのも、痛いのも、睡いのも、空腹もガマンして、一生懸命働いて居て下さるのだから今日のお晝一同丈、好きなお菜をガマンして梅干だけにしましよう」といふ意味で、日の丸辨當を一度實行。其日は小學校の兄姉達も同樣のお辨當でした。

5、「私達の代りになつて兵隊さん達が戰地で勇しく働いて居て下さる。其おかげで私達はかうして愉快に、安全にすごせます、おかげ樣でお正月も迎へられます、眞當に有難うございます」これは現在銃後の日本國民一人殘らずの感謝だと思ひます、幼兒にもこの兵隊さんへの感謝を持たせ度く、戰地へ贈る慰問袋を目下製

作中です。

6、明治節、教育記念日に幼兒と共に、國旗揭揚をし、宮城遙拜を致しました。

7、銃後の重任を負て雄々しくお父様と二人分家庭で盡していらつしやるお母様のお手助けが少しでも出來るなら(例へば保育時間延長の如き)これは教育といふより私共保姆の御奉公の一として盡し度いと思ひます。

Bの答

1、平時でさへ戰爭ごつこの好きな男兒達がこの事變以來(と申しても此園では十一月末から十二月へかけて)どんなに眞劍に戰ごつこをするかは、幼兒に親しい方々のどなたもがお感じになる事と思ひます。トーチカ、クリーク、塹壕も作ります。タンクも作ります。男兒が戰鬪帽を作れば女兒は赤十字のマークをつけて看護婦になります。擔荷を作り度いといふのでうすべりを棒に結びつけました、かうした遊びは十二月に入つてグン〳〵發展充實して來ました。

2、自由遊に、幼稚園でならはないむづかしい軍歌を盛に口ずさみます。

3、自由畫の紙上で、砂場の自由遊びで戰ごつこの多い爲か、動作や言葉使ひが自然荒くなり勝ちです。

以上の時局反映は勿論年長兒の方が度が強いように見うけられます。地方的にと申しますか鄕土的と云ひますか此園の所在地一帶は靜な生活をして居りますので、九月十月の頃はふしぎな程、常の子供らしい、平和な秋を樂しんで居りましたが、大場鎭陷落の旗行列から後、追々砂場や廊下の戰ごつこも盛になつて來て、最近では「蔣介石」などゝいふ言葉さへ口にする樣になつて來ました。勇ましい軍歌もよいのですが、すぎる言葉から、動作から、荒々しさが加はる事は氣をつけなければならないと思ひます。落葉とおどる事も、凧をあげるのも、羽根をつくのも此秋と冬、やつぱし此の子の六歲の秋に七歲の冬に缺くべからざる幼時の生活ではないでせうか。もうぢき、私共の忘れる事の出來ない、皇子さま御誕辰のあの感激の朝が廻つて來ます。そして續いてお正月が、クリスマスが。私共は「堅忍持久」を確と自分の胸に抱いて、幼兒から一時も離してはならない、健康と喜と力と、幼兒らしい朝夕を與へる事に惠念し度いと思ひます。

東京市麴町區富士見幼稚園　山村きよ

靖國神社の近くにある當園としては、いろ〳〵時局下の雰圍氣

につゝまれて過してまゐりましたので簡單に御答へ申上げます。

（A）

一、靖國神社參拜

當園の方針として酷暑酷寒を除いては毎週日曜日に必ず全園兒揃つて參拜に行く事として居りましたが、九月からは「出征兵士武運長久祈願」の團體參拜等で始終境内が混雜いたしますので、他の方々の御迷惑にならぬ樣注意して一組づゝに分れ、一週間に一度は必ず參拜に行く事にいたして居ります、そしてその都度、「日本の兵隊さん達がお怪俄をしない樣にお守り下さい」「早く日本が勝つて兵隊さん達が御無事におかへりになります樣に」等、小さい聲で言ひながら頭をさげる事にいたして居ります。皆各家庭からも參拜に行くと見えまして「何といつておまゐりしませうか」とたづねると、すぐ「兵隊さんが死なない樣に」とか「日本が勝つ樣」等々言葉はいろ〳〵で御座いますが、とに角「皇軍に對する感謝の念」は「幼兒ながらに」深くきざまれてゐる事を感じて喜んで居ります。

二、時局の反映した遊びの誘導

場所がら、九月上旬から十月上旬にかけては大變に戰時氣分が漲りまして、幼兒達の間にもいろ〳〵の遊びが表はれ、共に戰時氣分を味つて居りましたが、ともすると亂暴な遊びに、又亂暴な言葉、おもわしくない動作の者が出てまゐりますので、自由遊びには特別の注意をはらひました。そして戰爭ごつこ等には必ず保姆が仲間入りして、あまり長時間この遊びをつゞけぬ樣、軍事用品を造るための製作に向けたり、又幼兒の中から敵をつくらぬ樣注意いたしました（敵の目標に山、園舍、飛行機等）そして次第に兵隊ごつこに轉じて教練をしたり、射撃の眞似をしたり、軍歌で行進したりして、幾組かのグループに、始めの一二回は保姆が必ず誘導いたしました。それから後は自由に子供同志のグループが出來て年長も年少も入りまじつて「天に代りて」の行進も人員點呼も、ドン〳〵パチ〳〵も實に氣持よい戰時風景で御座いました。ことに女兒のまゝごと遊びと結びついて、防空演習、出征兵士の見送り等、日常家庭生活をそつくり幼稚園のお庭にお部屋に展開する事もございました。

三、其の他

保姆の心がまへ又用意としては、新聞のニュース寫眞のはつきりしてゐるもの、ことに日章旗の飜てゐるもの、タンク、裝甲自動車等は皆切抜いて幼兒の目の届く所に掲示しておきました（しかし取り立てゝ説明はいたしません、聞かれた時に説明する程度にいたしました）戰爭のお話は時は設けては話しませんが、時々子供等から出るお話をまとめてやる程度にいたして居ります。そしてその都度「支那人皆が惡い人ばかりではない」事を話して「日本

にも支那人が大勢居て日本人と仲よくして居る」事を話してきかせるのですが、どうも「支那人は弱蟲」だとか「支那のチャン〳〵坊主」とか「支那」といふ言葉さへ何かわるい言葉の樣に印象づけられて居りはせぬかと案じられて、この頃ではなるべく「支那」といふ言葉を口にしない樣注意いたして居ります。

世間があまりに非常時氣分たつぷりで幼兒等にも何となく落ちきない樣感じられた時も間々御座いましたが、それはほんの一時でやつぱり幼兒の世界だけに、平和な日常と變りない生活がつづられて居ります。こんな時、ほんとうに「大日本帝國國民」として生れた事を今更ながら感謝いたしますと同時に、第二國民の……しかも芽ばへの時を育む重任を授けられた私は「大事な幼兒の心身を守り育てる」事を銃後の何よりの務と堅く信じて、どんな事があつても「お子樣は、しつかり私共でお預りいたしお守りいたします」といふ言葉を日常保育の上に必ず「實行」して、幼兒の保健に性情の涵養に益〻心を引きしめてあたつて行き度いと思つて居ります。

**(B)現在の時局が反映した幼兒の生活いろ〳〵**

一、自由遊び

(女)まゝごと遊び→出征兵士見送り、防空演習、看護婦ごつこ等々

(男)戰爭ごつこ→兵隊ごつこ、空防演習等積木にてタンク、裝甲自動車等製作　砂遊びにて塹壕つくり、其の他戰時風景いろ〳〵

二、自由製作(男)

劍、青龍刀(日本では使用しない事を話して止めさせました)鐵砲、タンク等

三、自由畫(男)

戰爭してゐる所、タンク、裝甲自動車、軍艦、等殆んど全部の幼兒が書いて居ります

四、其の他

新聞又はニュース映畫の話合ひ、出征した人の話、等々軍歌「天に代りて」「露營の夢」等

幼兒の日常生活に變化を及ぼしたと思はれましたのは九月から約一ヶ月間で、其の後はいろ〳〵の表はれも少くたゞ防空演習の事は大部印象づけられた樣に時々遊びに表はれて居ります、そしてだん〳〵日常生活と變りなくなつてまゐりましたが、この非常時氣分が幼兒の氣分の上にも大變良い影響を與へております事は今になつてはつきりいたしてまゐりました、大人の感じる非常時氣分とは違つた感じでは御座いませうが「神樣にお詣りする」「兵

隊さんは大へんだ」「お辨當のおかずは何んでも食べる」「飛行機やタンクを造るのには澤山のお金がいる」等々々この際「日常生活には感じられない」「幼兒ながらの非常時氣分」を多分に感じられるのでございます。我々保育にある者としては充分この機會を利用して(言葉がわるうございますが)日頃取り扱ひに困つて居る特別な幼兒の保育に、生活訓練に、充分努力して行き度いと思つて居ります。(昭和十二、一二、一〇)

大阪市立中大江幼稚園　米山エン

**(A)非常時局に對し保育上留意せし點**

園兒一同に話した要點(九月一日の始業式に)

日本と支那とが喧嘩を始めました。

元から、日本と支那とは兄弟同志ですから、皆樣が一寸した事で、お兄ちやんやお姉ちやんと喧嘩をする樣なものです、然し今度の支那の御役人樣は、とても日本を嫌つてこんな戰爭と云ふやうな事になりました。然し今に支那の御國の人達が、惡るかつたと氣がつくでせう。その時は皆樣で慰めて可愛がつてあげませう。、今皆樣と同じやうな支那の子供さんが、その戰爭中の町に居て、お父さんや御母さんと、こわい〳〵目をし、食べるものもなく困つて居るでせう、ほんとにお氣の毒な事ですね、日本の兵隊さんからお米や、お金や、お菓子を貰つて、喜んだ事を覺へて居てくれるでせうが、中には、日本の事を惡く思ふ子供さんも出來て來ませう。

皆さんが大きくなつた時に、又二度とこんな戰爭が起きないやうに、今の兵隊さん達は御自身の命をお國に棒げて支那のわからずやの兵隊さん達を懲めて下さるのです。ほんとに勿體無いことですね。

天皇陛下樣をあがめ、御先祖を拜み、兵隊さん達の上に御苦勞の少ないやう、お國に居る者が努めませう。

そして、同じ御顏の色や、容ちをして居る日本と、支那は一緒になつて仲よくする樣に致しませう。

會集の時に(九月二日以後毎日)

新聞記事に表はれたる國際及戰爭記事中特に子供の心に印象付けらるゝものゝ中よきもの、將來の大國民としての襟度を養成すべきもの、勇壯なる日本の將士の奮戰振りや苦鬪振りを具體的に話す。

例一

○食糧がなく、五日も六日も玉葱の生を齧つて行進、進擊した事。

○飲料水がなく、自分の尿水を呑んだ事。
○風呂へは六十日目にはいた事、その風呂も鐵の釜が置いてあつたのに水を入れて焚いてはいつた話。
○クリークの中へ、一日一夜つかつて居たこと。
○飛行機から食糧投下をした際、中途で俵が解け、白米の雨が降つて、下のぬかるみへ皆落ちてしまつた事。
○彈丸が盡きて、石ころを投げつゝ一人になる迄戰ひ續けた兵隊さんの強さ。
○敵彈うけつゝ飛行機に火をつけ、日の丸の旗を振り乍ら友機に別れを告げて、
天皇陛下萬歲を叫びつゝ敵の居る頭の上へ、自爆し乍ら落ちた話。
○戰爭中でも、支那の人民達を可愛がつて白米や、お金をあげたり、親に別れた小さい子供達を可愛がつてやつた日本軍人の心の廣い溫かい事、等々。
幼兒に話す材料中特に注意した事は、
1、支那の國民を相手に戰爭をして居ない事、國民は皆よい人達である事。敵愾心を挑撥しないことを特に注意す。
2、日本は今大きな氣持で、支那の役人の間違つた事を、反省させて居る點。
3、幼兒をして、餘りに戰爭意識を驅り立てぬこと。
4、材料は、日本軍人として、愛國心に燃へ、祖國の親兄弟を想ひ。
天皇陛下の御鴻恩に對し奉り、一死報國の念に燃え立つて居もるのに限り、取り入れて聞かせる。

九月中旬より
會集の時に、三十秒の默禱を捧ぐ。
その心は
天皇陛下の御恙なきを祈る
祖先を思ひ、父兄の健康を祈る
皇軍將士の武運長久を祈る
其他、
○特に幼兒保健に留意し、體位向上について
運動、榮養、休憩につき、諸般の事項を實行す。
例へば、
○徒步を多くする遠足會
○運動中心の自由遊び
○從來より實施の國民體操につきては、家庭までも幼兒の力で誘ひ出す事
○經濟的方面につき

○廢物利用の製作品
○お小遣の貯蓄
○物質を大切にすること

**B、非常時局が幼兒の上に反映せし事項としては、**

1、軍隊に關する遊びが斷然多くなつた事、
鐵砲と鋤とで山や園庭の木を利用し、砂場に塹壕を堀り、兵隊ごつこが全盛を極めて居る、女兒は、國防婦人會の眞似をなし行進し、出征軍人を送る樣を眞劍にやつて居る。
その軍國調は、實にすばらしい保育材料である。
然しこれは自由遊びの間に於てなされるのであつて、保育の方針は、何等これによつて變更することなく、綜合保育細目により進行して居る。

其他、保護者に對しての注意
婦人會と提携して、部内全部の婦人の總動員をなし、非常時認識の婦人大會を開催、實行事項を申し合せ、必行事項はどこにして、各家庭にもれなく配布し、目につき易い處に貼らす。

その必行事項中
家庭を守れを强調し、子女の教育に專念することを第一となす。

大分縣　成蹊幼稚園

**A、時局に於て幼兒教育上注意してゐる事**

一、平素保育の軌道より自ら先導して非常時局の保育軌道に進み變へる事無きも街頭、又家庭にて斷片的乍らも幼兒に映じた時局に對する觀念見聞を無視する事なく、其の時局に對する見聞等を取り入れ、眞の姿を失はず自覺ある幼兒の養成に努む。

二、幼兒の一番良き指導者たる母親が非常時局に際し多忙にして留守勝となり、大切なる幼兒の身邊に觀察の眼屆き兼ね、從つて善良なる環境を造らず、幼兒は粗暴、又神經質、注意力散漫となる恐あり、依て保姆は家庭教育を補け能ふ限り幼兒の身邊に注意す。

三、今次の支那事變に際し、幼兒に堅忍持久、盡忠報國の精神の涵養に留意し國家の恩惠と皇軍の勞苦に對し衷心感謝の意を捧げる事に努む。

四、幼兒へ支那を漸次理解せしめ、支那人に對する侮蔑心を戒むると共に、大國民としての養成に留意す。

實踐要項

一、常に神佛崇祖の信念の涵養をなす事。

二、園の内外を問はず規則を遵守し緊張したる生活をなさしむる。

(イ)登園並に歸途の時間を守ること。
(ロ)交通機關の邪魔をせぬこと。(ハ)左側通行。
(ニ)繪本、玩具の使用を大切にし之が整理整頓をなす事。
(ホ)一定の時間以外に間食せぬこと。
(ヘ)起床就寢の時間を守ること。
(ト)外出の時は必ず父母の許可を受くこと。
三、堅忍持久、勞苦缺乏に堪へしむる事。
(イ)集會の時の作法　(ロ)泣かぬ事。
(ハ)缺席せぬこと。
四、喜んで勤勞に從ひ奉仕事業に貢獻する事。
(イ)簡單なる家庭の使ひ。(ロ)衣服所持品の整理。
(ハ)掃除の手傳ひ。　(ニ)公共物を大切にする事。
五、目下の我國の經濟狀態に鑑み幼兒として出來る限りの節約をなす。
(イ)衣服及び所持品を質素にする。
(ロ)學用品及び調度品を節約して叮嚀に用ふ。
(ハ)金錢を濫費せず貯蓄する事。
(ニ)紙を無駄に用ひぬ。
(ホ)金物類ゴムは可る丈使用せぬ事。

**B、時局が如何に子供に反映するか**

一、戰況時事問題の速かに報道される、新聞ラジオ映畫に對する關心を持ち、其の日の報道を幼稚園に齎し發表する向あり。
二、飛行機に對する智識欲と親しみを持ち空の護の大事な事をも辨へ防空演習の模倣遊戯が盛に行はる。
三、自由遊びの中にても味方同志結束して敵方に抗戰する態度眞劍なり。
四、軍事向の繪本を幼稚園に持參なし解答を求むる。

——ヨハンナ・スピリ原作——

# ハイデ

東京女子高等師範學校教授　津田芳雄譯

一、山を登つてアルム叔父さんの所へ

マイエンフエルトの古い落着いた村から、一本の小道が綠の野山をうねつて山の麓の方へ通じてゐる。それらの山は聳え立つ峯々から嚴かにこちらの谷を見下してゐる。道は登るにつれて段々嶮しくなり、やがて短い草や頑丈な高山植物の好い香がして來る。この邊からはもう直ぐ頭の上のアルプスの峯々に通ずる山道である。

或六月の晴れた朝、背の高い元氣さうな山邊の娘が小さい女の子の手を引いてこの山道を登つてゐた。小さい子の頰はその日焦した黑い顏にもそれと見える程に赤くほてつてゐた。それも無理はない。この暑い時に、まだ七つそこ〳〵の子供が眞冬の寒さでも防ぐやうに厚着をさせられてゐたのだから。だがその七つといふことをその姿格好から判斷することは一寸六かしかつた。三枚さまではゆかないが二枚は確かに着物を重ねて居り、その上に又厚地の赤い毛のショールを掛けてゐたものである。その無恰好な姿が小さい足を厚皮の山靴に入れてコツ〳〵と暑い中を登つてゐた。

二人はものゝ一時間も登つた頃、アルムといふ大きな山の中腹に在る小さい村に着いた。この村はイム・デルフリ(小村)と云つて、大きい方の娘の生れ故郷であつた。それでごの家からもごの家か

らも挨拶をされ、窓から、戸口から路の上からと呼びかけられたものだつたが、娘は歩き乍ら答へるだけで、村の端れに着くまでは足を停めなかつた。村端れに來るともう小さい家が二三軒ぽつり〳〵あるだけである。その一番端れの家から「デーテ、ちよいとお待ち。もつと上に登るのなら妾(ワタシ)も一緒に行くわ」と呼ぶ聲がした。

娘が呼んだ人を待たうと立止ると、小さい子は娘の手を放して直ぐと地べたに坐つた。

「ハイデ、疲れたの?」と娘のデーテは尋ねた。

「いえ、でも暑いの」と小さい子は答へた。

「あなたが大きく歩いて、一生懸命に登つたらね、もう一時間で登りつくわよ」とかう云つて大きい方の娘は小さい連れを元氣づけた。

家からは達者さうな快活な女が出て來て、二人に加つた。小さい子は立上つて大きい人達の後からぶらり〳〵と從いて行つた。大きい人達は直ぐに近所の親しい人達や村の人達の噂話を始めた。

「それはさうとデーテ、あなたはこの子を何所へ連れて行くの?この子は亡くなつたあなたのお姉さんの子でせう」と新な連れは尋ねた。

「さうよ。で、アルム叔父さんの所へ連れて行つて、其處に殘して置くの」とデーテは云つた。

「まさか、アルム叔父さんの所へ行くなんて正氣の沙汰ぢやないわ。屹度あの人、あなた達を追ひ返して、あなたの云ふことなんて聽きやしないよ。」

「だつてこの子のお祖父(ヂイ)さんだもの、何とかしてもらはなくては、妾(ワタシ)は今までこの子の面倒をみて來たでせう。ね、バーベル、妾はこの子の爲に好い奉行口をふいにしたくないわよ。今度は叔父さんの番よ。」

「それがね、普通の人だつたらいゝけど。あんな人つていふこと、あなただつて知つてるでせう。

それにこんな小さい子を、あの人にどうすることが出來ませう。この子だつてゐたゝまらないわ。でも、あなたは何所へ奉行に行くつて？。」

「フランクフルトの立派なお屋敷よ。去年の夏その家の方がラガツツ（溫泉場）にいらつしてね、妾がそのお部屋の掛だつたの。妾がお氣に召して、その時連れて行きたいが來ないかつて云はれたけれど、出られなかつたの。今年又いらつして、勸められたから行くことにしたわ。」

「まあ、妾、この子でなくて好かつた！」バーベルは身震し乍ら云つた「あの叔父さんと來たら山の上でどんなことして暮してゐるかわからないからね。誰とも物は云はないし、一年中教會には近附かない。たまに山を下りて來た時はみんなが避けるしさ。一人で會へる人なんか無いんだよ。太い白い眉毛や、無氣味なでかい顎鬚を生やして杖をついて來る所はまるで昔の異教徒か蕃人みたいに恐いからね。」

「そんなこと妾の知つたことぢや無いわよ。叔父さんはこの子を苛めはしないさ。苛めたつて、それは叔父さんが惡いので、妾は知らないよ。」

「叔父さんは何か氣を咎めるのだらうね。どうしてあんなに眼が凄くて、山の上に獨で住んでゐるのだらうね。誰も訪ねて行つた人は無いし、色んな妙な噂があるが。デーテ、お姉さんから何か聞いてゐない？。」

「それは聞いてゐるさ。だけど默つて置かう。でないと叔父さんから怒られて困ることになるからね。」

バーベルは前々からアルム叔父さんのことを詳しく聞きたいと思つてゐた。アルム叔父さんはどうしてあんなに人を憎んでゐるやうにして、獨りぼつちで暮してゐるのか、どうして世間の人達は、叔父さんの惡口を云ふのは恐いが叔父さんを好く

は云ひたくないと云つたやうに、ひそ〳〵聲で叔父さんの噂をするのか、バーベルには解らないのであつた。それにデルフリの村の人達が皆あの人をアルム叔父さんと呼ぶのはどういふ譯だらう。みんなの叔父さんなんてことはある筈はない。けれどもみんながさう云ふのでバーベルもさう呼んでゐるのだつた。彼女は數年前にこの村に嫁に來た者で、それまでは下の方のプレティガウといふ村の人であつた。それに引きかへデーテの方はこの村の生れで、去年母親が亡くなつてから、ラガッツ溫泉場の大きいホテルに女中奉行をしてゐるのであつた。今朝彼女は遙々ラガッツからこの子を連れて、マイエンフェルトまでは枯草馬車に乘せてもらひ、此所までやつて來た所であつた。それでバーベルにしてみれば得難い機會である。彼女は親しさうにデーテの腕を把つて云つた「ねえ、あなたにはこの噂の本當のことが分つてゐるでせう。叔父さんにどんなことがあつたの？前からあんなに人から避けられ、叔父さんの方でも前から人を嫌つてゐたの？聞かしてよ。」

「前からどうであつたか、そんなこと分らないわ。叔父さんは七十になり妾は二十六だもの。だけど、妾の話すことがプレティガウ中に分つてしまふのでなければ色々話してもいゝわ。妾のお母さんもあの叔父さんもドムレッシュから來た人なの。」

「ひどいよ、この人。プレティガウはそんなに人の噂をしない所よ。妾だつて喋つてならないことは喋らないわ。」

「ぢや話すわ」と云つて、しかし子供が直ぐ後についてゐて、聞いては惡いと思つて振返つて見ると、子供が見えない。二人が話に夢中になつてゐる間に何處かで道から外れたらしい。デーテは立止つてあちこち見廻した。道は所々曲つてはゐる

が殆んどデルフリまで見通しが利く。けれども道には見えない。

「あー、あそこにゐるわ。あれ御覽」とバーベルが道から大分離れた所を指し乍ら呼んだ。「山羊を連れた山羊飼のペーテルと一緒に登つてゐるのね。今日はペーテルどうしてあんなに遲いだらう。だけど妾達には都合が好いわ。ペーテルに委して置けばあの子は間違無いし、あなたは邪魔がなくて話が出來るからね。」

「お守の方は心配ないわ。あの子は七つにしては、眼がよく利いて賢い子だからね。小屋と山羊二頭しかない叔父さんには今に調法な子になるわよ。」

「あの叔父さん、前にはもつとあつたの?。」

「それはさうともさ。ドムレッシュでは一番の畑持だつたんだからね。だけど若い時に贅澤を覺えて、酒と遊びに何もかも失くしてしまつたのさ。叔父さんの親達はそれを悲んで亡くなつてね、叔父さん自身も村から姿を消したんだつて。それからずつと後になつて、大分大きくなつた男の子を連れてひよこつり歸つて來てさ、その子を何所か親戚に預けようとしたけれど誰も相手にしない。それに色々惡い噂も擴がつたさ。それで叔父さんは怒つてしまつてね、もうドムレッシュには住まないと云つて、その子を連れてデルフリに來たんだつて。その子はトビアスと云つて後で大工さんになつたが、おとなしい、しつかりした人だつたつて。デルフリでは家のお母さんのお祖母さんが、あの叔父さんの從姉に當るので、家と親類附合をすることになつてね、家のお父さんの方からいふと村の殆んど全部の人が緣になるので、村の人達もそれから叔父さん〳〵と云ふやうになつたんだつて。そしてアルムの山に住むやうになつてまたアルム叔父さんと云ふやうになつたんだつ

て。」

「そしてトビアスさんはどうなつて?」熱心に聽いてゐたバーベルは尋ねた。

「ちよつと待つてよ。今その話をするから。だけど一度に何もかもお話し出來ないわ。」デーテは叫んだ。「トビアスはね、メルズで大工さんの修業をして、一人前になつてから村に歸つて來て、姉のアデライデと結婚したの。二人は何時も仲が好くて、とても幸福な夫婦だつたわ。でも、その喜びは短かくてね。二年後に、トビアスは或うちの家を建てゝゐる時に、梁が落ちかゝつて來て死んでしまつたの。姉さんはびつくりしてね。かねてから弱くて、その發作が來た時には目が覺めてゐるのか、眼つてゐるのか分らんやうな妙な持病があつたのだが、たうとう夫が亡くなつて二月目には姉さんのお葬式が出ることになつてしまつたのよ。

「世間ではこれは叔父さが不品行であつた天の罰だと云つてね、叔父さんに面と對つてさういふ人まであつたの。叔父さんはその後は誰とも一切口をきかなくなつて、あんなに教會と世間の人に背いて山の上に引越してしまつたの。

「お母さんと妾はアデライデの二つになる赤ん坊であつたこのハイデを引取つてさ、お母さんが亡くなつてからは、ラガッツに連れて行つて、妾が金を出して人に預けてゐたのよ。だけど去年いらつしたフランクフルトのお客さんが又この春いらつしてさ、是非來いと仰有るもので、明後日行くことにしたわ。とても好い口よ。」

「それでこの子をあの恐い叔父さんに渡す積りなの?デーテ、どうしてそんなことが出來るでせう!」バーベルは責めるやうに云つた。

「だつて妾はもう妾の義務を果したと思ふわ。フランクフルトへ連れては行けないし、何處へ連れ

て行くの？所でバーベル、あなたは何處へ行くところ？もうアルムの山を半分登つたわ。」

「あ、恰度着いた所だつた。この家に冬の糸紡を頼む用があつたの。ではさよなら。御機嫌好うね。」バーベルはさう云つて、道傍（ミチバタ）の窪地に在る小さい媒けた山小屋の方へ行つた。

この山小屋といふのはひどい家で、デルフリから丁度アルムの中腹位の所に當るので、窪地にでもなければ、風の强い時には簡單に下の谷に吹き下されさうだつた。こんな窪地に在つてさへ、少し風の强い日にはガタ〳〵ギー〳〵と大變であつた。

これは山羊飼の少年、十三歳のペーテルの家であつた。彼は毎朝デルフリまで下りて行つて山羊を連れて登り、上の山でおいしい山の草を食（ハ）ますのであつた。それから夕方になると又デルフリまで跳んで下りて、そこで指の間からピューッと口笛を鳴らす。すると山羊の持主達が名々の山羊を取りに集つて來る。この集つて來るのは大抵小さな男の子や女の子であつた。山羊はやさしくて恐くないので。この時がペーテルが長い夏の日に、他の子供達と遊ぶ唯一の機會であつた。毎日の他の時間は山羊が相手である。家には尤もお母さんと盲目のお祖母さんがあるが、家では簡單な朝晩の食事をする時間があるのが精々。あとは寢床にもぐり込むだけである。それで彼は出來るだけ長くお友達と遊ぶことが出來るやうに、何時も朝は早く家を出て夕方は遲く歸つた。彼のお父さんは數年前に木を伐つて居る時に怪我をして死んだ。お父さんも「山羊飼のペーテル」と云はれてゐた。お母さんのブリギッタも「山羊飼ペーテルのお神さん」と云はれた。盲目のお祖母さんはその邊一たいの若い人、お年寄にとつて一樣に「お祖母さん」であつた。

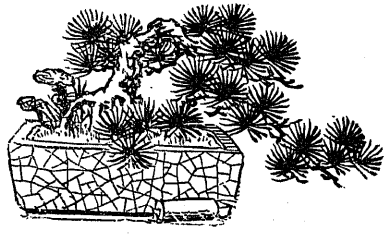
デーテは十分位立止つて、子供達と山羊が登つて來るのを見附けようとあちこち眺めてゐた。けれども一向に見えない。それで彼女はもつと見晴の利く高い所に登つて、愈々心配な樣子を見せて、あたりの斜面を眺め續けた。

一方子供達は、ペーテルが山羊の好い食物のある所を知つてゐて、道を眞直には山羊を連れて登らない習慣だつたので、あちらに外れ、こちらに廻りして登つてゐた。小さいハイデは暑さと鎧のやうな着物に大分參つて、はあ〳〵云つてゐたが、それでも一生懸命ペーテルの後について、何とも云はなかつた。けれどもその小さい目は、輕い短いずぼんをはいて跳び廻るペーテルや、それよりも樂に岩や藪を跳び越えたり嶮しい坂を駈け上つたりする細い脚の山羊を、始終見てゐるのだつた。いきなりハイデちやんは地べたに坐つた。そして小さい指で大急ぎに靴と靴下を脱いだ。それから立上つて赤い肩掛を投げ捨て、着物を一枚脱いだが、まだその下に着物がある。デーテが持つて行く面倒を省く爲に晴衣（ハレギ）の下にふだん着を何枚か着せてゐるのであつた。が忽ちそれらの着物も脱いで、輕い袖の短い下着だけとなつて、ハイデは喜んで小さい手を差伸した。それから脱いだ物を一所（トコロ）に積んで置いて、ペーテルと山羊の後を元氣好く追つて行つた。ペーテルはハイデが後に殘つた時に、何をしてゐるか氣をつけてゐなかつた。がこの時ハイデの姿を見て笑つた。ふり向いて地面にある着物の積んだのを見ると益々笑つた。けれども何とも云ひはしなかつた。

ハイデはもう樂に歩けるやうになつたので、ペートルと話を始めた。「山羊は何匹ゐるの」とか「何處まで行くの」「そこへ着いたらどうするの」とか色々なことを訊いてペートルに答へさせた。暫くして漸く二人は例の山小屋の所へ來て、待構へて

るたデーテに見附かるこ、デーテは大きな聲で「ハィデ、何してゐたの？まあ何ていふ姿でせう。着物や肩掛はどうした？買つてやつた新しい靴も、編んでやつた靴下もないぢやないの？なに考へてゐたんでせうね、ハィデ！着物やなんか皆何處へ置きました？」

ハィデは落着いて下の方の或一點を指さして「あそこ」こ答へた。デーテは指さゝれた方向を見るこ、地面に何かわづかに見える。その上に赤い點が見えるのは確かに毛の肩掛らしい。



## 再版

日本幼稚園協會編

# 幼稚園談話集

菊版三五〇頁
定價金壹圓五拾錢

さきに發行せられた東京女子高等師範學校附屬幼稚園編『系統的保育案の實際』は非常の歡迎を受け、既に多數の方々により研究せられ又實施せられても居ります。就いてはその中に用ゐてあります談話につき、便宜一まとめにした書物がないかとの御要求が澤山ありますので、此の談話集を編纂發行致しました。右保育案を御使用の方は素より、そうでない方にも、幼稚園談話選集として極めて御便利のものと信じます。實際御使用のために定價も普通の市價の標準を離れて、出來るだけ廉價にいたしました。本會の趣旨のあるところをお汲み取りいたゞけば幸です

郵税
市内　金六錢
地方・北海道・臺灣・樺太・朝鮮・滿洲　金拾五錢

## 四版

東京女子高等師範學校附屬幼稚園編

# 系統的保育案の實際

一保育案の實際は幼稚園必須の資料
一東京女子高等師範學校附屬幼稚園現行の保育の實際は各幼稚園好箇の參考
一待望の本書を全國幼稚園保姆諸君に勸む

定價　金壹圓
送料　金六錢

## 月刊

# 幼兒の教育

幼兒教育に關する忠實なる月刊雜誌として、眞に全國幼稚園、託兒所の方々のものたらんことを切望してゐます。

一ヶ月　金參拾五錢　送料金一錢
一ヶ年　金四圓貳拾錢　送料共

○定價及郵税を添へ本會宛直接御註文下さい。

發行所　日本幼稚園協會
東京市小石川區大塚町卅五番地
東京女子高等師範學校附屬幼稚園內
振替東京一七二六六番

日本幼稚園協會編輯　幼兒の教育

會長　東京女子高等師範學校長　下村壽一
主幹　東京女子高等師範學校教授　附屬幼稚園主事　倉橋惣三

## 日本幼稚園協會規則

第一條　本會ハ幼兒教育ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第二條　本會ハ日本幼稚園協會ト稱ス

第三條　會員タラントスルモノハ幼稚園ニ關係アルモノ又ハ幼兒教育ニ篤志ナルモノトス

第四條　會員ハ會費トシテ一ケ月金參拾五錢ヲ醵出スヘシ、會員ハ無料ニテ本會發行雜誌ノ配布ヲ受ケ又本會ノ事業ニ關シ諸種ノ便宜ヲ受ク

第五條　令聞名望アル人ニシテ本會ノ事業ニ裨益アリト認ムルトキハ特ニ請ヒテ客員トナスコトアルヘシ

第六條　幼稚園ニ關係アルモノニシテ本會ノ事業ノ爲ニ特ニ盡力ヲ與ヘラルヽモノニ請ヒテ地方委員トナスコトアルヘシ

第七條　本會ハ毎年一回總會ヲ開ク。
但場合ニヨリ臨時休會スルコトヲ得

第八條　本會ハ左ノ事業ヲ行フ
一、幼兒教育ニ關スル研究及ヒ調査
一、幼兒教育ニ關スル講演會及ヒ講習會ノ開催
一、雜誌發行（毎月一回）
一、幼兒教育ニ關スル圖書刊行
一、保姆就職及招聘ニ關スル仲介
一、其他本會ノ目的ニ裨益アリト認メタル事件

第九條　本會ニ左ノ役員ヲ置ク
會長　一名　會務ヲ總理ス
主幹　一名　會長ヲ補佐シテ會務ヲ掌理ス
幹事　若干名　會長ノ指揮ヲ受ケ會務ヲ分掌ス
評議員　若干名　重要ナル事件ニ關シ會長ノ諮詢ニ應ス

第十條　會長ハ客員中ヨリ推薦スルモノトス

第十一條　主幹　幹事　評議員ハ二ケ年ヲ期シテ會長ヨリ推擧スルモノトス

第十二條　本會ハ必要ニ應シ特ニ委員ヲ設ケ又ハ書記ヲ雇入ルヽコトアルヘシ

第十三條　本規則ハ總會出席會員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルニアラサレハ變更スルコトヲ得ス


昭和十三年一月十三日印刷納本
昭和十三年一月十五日發行

幼兒の教育　第三十八卷　第一號

東京女子高等師範學校附屬幼稚園內
編輯兼發行者　倉橋惣三
東京市本郷區駒込林町百七十二番地
印刷者　柴山則常
東京市本郷區駒込林町百七十二番地
印刷所　合資會社　杏林舍

發行所　日本幼稚園協會
振替口座東京一七二六六番
東京市小石川區大塚町三十五
東京女子高等師範學校附屬幼稚園內

定價

| | |
|---|---|
| 一ケ月分 | 金參拾五錢 |
| 半ケ年分 | 金貳圓拾錢 |
| 一ケ年分 | 金四圓貳拾錢 |
| 拾貳册送料 | 壹錢 |
| 六册送料 | 共 |

廣告

| | |
|---|---|
| 特等面一頁 | 金貳拾圓 |
| 二等面一頁 | 金拾圓 |
| 一等面一頁 | 金拾五圓 |
| 一頁以下 | 御斷り |

（外國行郵稅は一部金拾貳錢の割にて御拂込下さい）

神田區駿河臺ノ三番地　田廣告社に御申込下さい



不許複製
禁轉載


## 注文規定

一、本誌御注文の方は凡て前金（郵稅共）で願ひます。（郵券代用の場合には總て一割增）

一、御送金の場合はなるべく振替貯金で振替口座東京一七二六六番日本幼稚園協會宛に願ひます。

一、送金の節には第何卷第何月號より第何月號迄と明記せられたし。

一、本誌の代金に對しては別に領收證を差出しません。特に御入用の方は往復はがきで御申越を願ひます。

一、會費切又は前金切の際にはその最終發送の雜誌の帶封に「前金切」の印章を押捺いたしますから其節は早速御送金を願ひます。

一、本誌の見本御入用の場合には前金參拾五錢發送を願ひます。

昭和四年五月十五日第三種郵便物認可
（毎月一回十五日發行）
昭和十三年一月十三日印刷納本
昭和十三年一月十五日發行

# お子樣の歡ぶ今月の手技用品

## 並に表簿類

◇虎の贈物――後藤牧星先生新案の厚紙細工の本年に因んだ虎、クレオンで彩色して貼合せます。その他壁掛併用孔雀箱、風車等何れも各種別十枚宛一組　一組　金二十錢

◇繪馬額――厚紙で作つた繪馬、クレオン貼紙等でお子樣御自身が意匠する大歡迎の手技用品。十枚　金二十錢

◇菱　形――赤白草三色の菱餅を重ねたやうな厚紙臺紙に、縮緬摺紙で雛を折つて貼ります。十枚　金三十錢

◇屏風形――雛祭又はお人形遊用金屏風の華麗なもの、之に貼紙の櫻其他を以てお子樣方に美事な意匠ができます。十枚　金四十錢

◇出席カード　武井武雄畫伯揮毫の愉快な美しいカード、之に毎日夫々貼紙を貼つて出席と共に美しい繪に完成される仕組、家庭との通信欄、幼兒發育標準表も添へた美事なもの、十二枚一組、一人一ヶ年分　金十二錢

◇保育證書――堅緻な良質紙に文字を墨、周圍輪廓を金刷と優雅な色刷にした新圖案のものとあり、姓名年月日を書き入れるやうになつてゐます。御園名入は二月末日迄に御注文、無名ならば即時にお間に合ひます。

一〇〇枚　園名入　金四圓五十錢
五〇枚　園名入　金三圓
無名　一枚　金六錢

御園名入の保育證書は二月末日迄に御注文下さい

◇出席簿用紙――一〇〇枚　金一圓二十錢
◇豫定案日誌――一冊（一年分）　金一圓五十錢
◇在籍簿用紙――一〇〇枚　金一圓
◇月謝袋――一〇〇枚　金一圓五十錢

株式會社　フレーベル館

本社　東京・神田・保町二番（33）六六三
　　話電・二六六三
　　話電・二八三七

出張所　大阪・東區・備後町五番（24）一九三八
　　話電・一九三八

定價三十五錢